

戰時法令

明治三十七年發行

220

443

031026-000-5

CZ-5-0178

戰時法令

日本法学書院

M37

BBC-0516



詔 勅

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ
 朕茲ニ露國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク全力ヲ極メテ露國ト交戦ノ事
 明從フ
 一ノ朕カ百僚有司ハ宜ク各其ノ職務ニ率ヒ其ノ權能ニ應シテ國家ノ目的ヲ達ス
 努力スヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ遺算ナカラムコトヲ期
 惟フニ文明ヲ平和ニ求メ列國ト友誼ヲ篤クシテ以テ東洋ノ治安ヲ永遠ニ維持シ各國
 ノ權利利益ヲ損傷セズシテ永ク帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スヘキ事態ヲ確立スルハ朕
 夙ニ以テ國交ノ要義ト爲シ日暮敢テ違ハサランコトヲ期ス朕カ有司モ亦能ク朕カ意
 體シテ事ニ從ヒ列國トノ關係年ヲ逐フテ益々親厚ニ赴クヲ見ル今不幸ニシテ露國及
 ト釁端ヲ開クニ至ル豈朕カ志ナラムヤ
 帝國ノ重ヲ韓國ノ保全ニ置クヤ一日ノ故ニ非ス是レ兩國累世ノ關係ニ因ルノミナラ
 ラス韓國ノ存亡ハ實ニ帝國安危ノ繫ル所タレハナリ然ルニ露國ハ其ノ清國トノ明約
 列國ニ對スル累次ノ宣言ニ拘ハラズ依然滿州ヲ占據シ益々其ノ地歩ヲ鞏固ニシテ終
 ニ之ヲ併吞セムトス若シ滿州ニシテ露國ノ領有ニ歸セン乎韓國ノ保全ハ支持スルニ
 由ナク極東ノ平和亦素ヨリ望ムヘカラス故ニ朕ハ此機ニ際シ切ニ妥協ニ由テ時局ヲ
 解決シ以テ平和ヲ恒久ニ維持セムコトヲ期シ有司ヲシテ露國ニ提議シ半歲ノ久シキ
 ニ至リテ屢次折衝ヲ重チシメタルモ露國ハ一モ交讓ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘス曠日彌

30
 4
 7
 内交

久徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメ陽ニ平和ヲ唱道シ陰ニ海陸ノ軍備ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシムトス凡ソ露國カ始ヨリ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノ毫モ認ムルニ由ナシ露國ハ既ニ帝國ノ提議ヲ容レズ韓國ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ帝國ノ國利ハ將ニ侵迫セラレムトス事既ニ茲ニ至ル帝國カ平和ノ交渉ニ依リ求メムトシタル將來ノ保障ハ今日之ヲ旗鼓ノ間ニ求ムルノ外ナシ朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ナルニ倚賴シ速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名 御璽

明治三十七年二月十日

内閣總理大臣兼	伯爵	桂	太	郎
海軍大臣	男爵	山本	權兵衛	吾
農商務大臣	男爵	清浦	奎	助
大藏大臣	男爵	曾	荒	助
外務大臣	男爵	小村	壽太郎	郎
陸軍大臣		寺內	正毅	郎
司法大臣		波多	野敬	直
遞信大臣		大浦	兼	武
文部大臣		久保	田	讓

法律

○法律第一號 (明治三十七年三月)

臨時事件支辨費法

第一條 臨時事件支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲナシ國庫債券ヲ發行シ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

第二條 一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ二億八千万圓以外トス

本法及明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依ル一時借入金國庫債券及特別會計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル爲必要ナル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第三條 一時借入金國庫債券及公債ノ利率募集借入ノ方法規約据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノ、外整理公債條例ヲ適用ス

○法律第二號 (明治三十七年三月)
陸海軍屬スル臨時事件支辨特別會計法
陸海軍ニ屬スル臨時事件支辨會計ハ一般ノ歳入歳出ト區分シ臨時事件ノ終局マテ一會計年度トシテ特別ニ之ヲ整理ス

非常特別稅法

○法律第三號 (明治三十七年三月)

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲メ本法ニ依リ地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、狩獵免許稅、鐵區稅及各種ノ輸入稅ヲ増徴シ毛織物及石油ニ消費稅ヲ課シ民事訴訟用印紙ヲ増貼セシム

第二條 地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、狩獵免許稅、鐵區稅及飲食物、衣服及附屬品、石油、砂糖、糖蜜、糖水、絹布類、酒類、煙草類ノ輸入稅ハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徴ス

一 地租	地價百分ノ五、五
市街宅地	地價百分ノ三、五
郡村宅地	地價百分ノ一、八
其他ノ土地	營業稅法ニ依リ
二 營業稅	稅額十分ノ七
三 所得稅	所得稅法ニ依リ
第一種及第三種所得	稅額十分ノ七

四酒稅

酒造稅法ニ依ル酒類

- 第一種
- 第二種
- 第三種

麥酒

酒精又ハ酒精含有飲料

(原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ)

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金貳錢五厘

沖繩縣酒類出港稅

沖繩縣酒類出港稅則第一條第一項ニ依リ

課稅スヘ酒稅

一石ニ付金五十錢

同第二項ニ依リ課稅スヘキ酒類

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金二錢五厘

五砂糖消費稅

- 第一種
- 第二種
- 第三種
- 第四種

百斤ニ付金一圓

百斤ニ付金三圓

百斤ニ付金三圓三十錢

百斤ニ付金三圓七十錢

六醬油稅

醬油稅則第二條本文ニ依ル場合

醬油

諸味一石ニ付金五拾錢

溜

製成一石ニ付金五拾錢

醬油稅則第二條但書ニ依ル場合

醬油

諸味一石ニ付金廿五錢

溜

製成一石ニ付金廿五錢

七登錄稅

不動產ニ關スル登記

法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ三

法定ノ家督相續以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ

因ル所有權ノ取得 不動產價格千分ノ五

遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ十

其ノ他ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ五

從來保有セル所有權ノ保存

不動產價格千分ノ三

華族世襲財產ノ創設

不動產價格千分ノ五

船舶ニ關スル登記

法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格千分ノ二

法定ノ家督相續以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ

因ル所有權ノ取得 船舶價格千分ノ五

遺言、贈與其他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格千分ノ二十

其ノ他ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格千分ノ五

從來保有セル所有權ノ保存

船舶價格千分ノ二

登記稅法第六條及第六條ノ二ニ依ル登録稅

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ

課稅標準千分ノ一

一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金十圓ナルトキ 金五圓

稅額金五圓ナルトキ 金二圓

稅額金三圓ナルトキ 金二圓

稅額金二圓ナルトキ 金一圓

稅額金一圓ナルトキ 金五十錢

法 律

稅額金五十錢ナルトキ金二十錢

鑛業ニ關スル登記

試掘

金二十五圓

採掘

金五十圓

試掘増區及増減區ニ係ル訂正

金十圓

採掘増區及増減區ニ係ル訂正

金二十五圓

買受、讓受

金二十五圓

入取引所稅

商品、有價證券 買賣各約定代金高 萬分ノ三

國債及地方債證券 同 萬分ノ二

九狩獵免許稅

一等 金十圓

二等 金五圓

三等 金一圓

十鑛區稅 鑛區一千坪毎ニ一箇年金十錢

十一輸入稅

關稅定率法附屬輸入稅表第二類ニ掲クル物品但シ

糖菓類ヲ除ク 從價五分

糖菓類

甲 菓子 從價一割

三

乙 砂糖、糖蜜、若ハ糖水ヲ以テ貯藏シタルモノ
 從價五分

關稅定率法附屬輸入稅表第三類中ニ揚ケル物品ニ
 シテ絹製及絹入ノモノ
 從價二割

酒精(アルコール)
 每リートル金三錢

各種變性アルコール
 每リートル金三錢

各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク)
 每リートル金三錢

石油
 從價二割

砂糖(和蘭標本色相第十五號未滿)
 從價二割五分

糖蜜
 從價二割

糖水
 從價二割

支那縮緬
 從價一割

支那絹綉
 全

支那絹紋縵子
 全

絹縵縵子
 全

刺繡絹布及刺繡絹綿布
 全

其ノ他各種ノ絹布(純絹ト他物ヲ交ヘタルト別
 タス但シ絹ノ重量超過スルモノ) 從價一割

諸製造煙草
 從價十割

支那酒(釀造シタルモノ) 從價二割

清酒 從價二割

各種ノ酒類ニシテ原容量百分中純酒精ノ容量五十
 以上ナルモノ 純酒精ノ容量一箇ツ増ス毎ニ十
 「リートル」ニ付金五厘

第三條 毛織物及石油ニハ左ノ割合ニ依リ消費稅ヲ課
 ス

一 毛織物 價格百分ノ十五

二 石油 每ガロン金三錢二厘

前項ニ於テ毛織ト稱スルハ毛ノ分量ニ拘ラズ總テ毛
 製、毛絹製又ハ毛綿製ノ織物ヲ謂フ

第四條 訴狀其ノ他民事訴訟ニ關スル申立又ハ申請ノ
 書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ
 外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 第一審ノ訴狀

財產權上ノ請求ニ係ルモノ
 訴訟物ノ價額金五圓マテ 金五錢

同 十圓マテ 金十錢

同 二十圓マテ 金二十錢

同 五十圓マテ 金三十錢

同 七十五圓マテ 金三十錢

同 百圓マテ 金五十錢

同 二百五十圓マテ 金五十錢

同 五百圓マテ 金二圓

同 七百五十圓マテ 金二圓

同 千圓マテ 金三圓

同 二千五百圓マテ 金五圓

同 五千圓マテ 金五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ 金一圓

財產權上ノ請求ノ非サルモノ 金五十錢

二 控訴狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額

三 上告狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ト同額

四 支拂命令ノ申請

訴訟物ノ價額金十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ民事
 訴訟用印紙法及本法ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用ス
 ヘキ印紙金額ノ半額ト金二十錢トノ差額

前項ノ差額ハ民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依
 リ訴カ區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一

條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合
 ニ於テ訴訟ニ付キ貼用スヘキ印紙ノ額ニ之通算ス
 ヘシ

五 其ノ他ノ申立又ハ申請

期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日
 ノ指定ノ申立

中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ
 申立

從參加ノ申請

忌避ノ申請

和解ノ申立

費用確定ノ申請

假執行ノ宣言ヲ求ムル申立

強制執行ノ停止又ハ續行若ハ執行處分
 ノ取消ノ申立

配當要求

家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權
 ノ申立

強制競賣又ハ強制管理ノ申立

債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請

民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百
 三十四條ノ申立

金二十錢

證據調ノ申立

判決ノ送達ヲ求ムル申立

執行力アル正本ヲ求ムル申立

但シ此ノ正本敷通ヲ求ムルトキハ毎

一通ニ付

假差押又ハ假處分ノ申請

抗告

故障

答辨書其他特ニ掲ケサル申立又ハ申請 金五錢

左ニ掲ケル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙

法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八十錢ノ印紙ヲ増貼

スヘシ

一 裁判上代位ノ申請

二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三 裁判上ノ代位、競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記

ニ關スル抗告

訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキ

ハ第一項第五號ノ規定ヲ適要セス

本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復

ノ申立ニ之ヲ準用ス

金五十錢

六

第五條 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニ

ハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左

ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 左ニ掲ケル申立

抗告

假差押者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

支拂猶豫ノ申立

二 其ノ他ノ申立又ハ申請

破産手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ

貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

財團ノ價格金五圓マテ

同 十圓マテ

同 二十圓マテ

同 五十圓マテ

同 七十五圓マテ

同 百圓マテ

同 二百五十圓マテ

同 五百圓マテ

同 七百五十圓マテ

同 千圓マテ

金五十錢

金五錢

金十錢

金二十錢

金四十錢

金六十錢

金一圓

金一圓

金一圓

金四圓

金四圓

金六圓

同

同 二千五百圓マテ

同 五千圓マテ

同 五圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ金二圓

前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ

場合之ヲ準用ス

商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規

定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 左ニ掲ケルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依

リ其ノ消費稅ノ免除ス

一 外國ニ輸出スル毛織物又ハ石油

二 製造者ノ自用ニ供スル毛織物又ハ石油

第七條 毛織物又ハ石油ノ消費稅ハ製造場、税關又ハ

保税倉庫ヨリ毛織物又ハ石油ヲ引取ル時引取人ヨリ

之ヲ徵收ス

第八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毛織物及石油消

費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第九條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取

ル者ハ引取ノ際其ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル

價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ

法律

評定ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即服

異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定

シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格ト

ノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨ

リ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負

擔トス

第十條 第六條又ハ第八條ニ該當スル場合ノ外消費稅

納付前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織

物又ハ石油ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 毛織物又ハ石油製造者ハ第六條又ハ第八條

ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テ毛織物又ハ

石油ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得

ス

第十二條 自用ニ供スルモノヲ除ク外毛織物又ハ石油

ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十三條 毛織物又ハ石油製造者ハ其ノ製造場ニ於テ

毛織物又ハ石油ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス

七

第十四條 毛織物又ハ石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ毛織物又ハ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載ス

第十五條 收稅官吏ハ毛織物又ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り毛織物又ハ石油、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得
收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル毛織物又ハ石油ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス
一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セシテ毛織物又ハ石油ヲ製造シタルトキ
二 擔保物ヲ提供セシテ消費稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル場合ニ於テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引

八

取リ又ハ移出シタル毛織物又ハ石油ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
一 毛織物又ハ石油ノ製造者又ハ販賣者毛織物又ハ石油ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用非ス
第二十條 毛織物又ハ石油ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

第二十一條 毛織物又ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニ

第二十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體
一 左ノ制限以内ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス
一 北海道、府縣、北海道ノ區、一級町村及二級町村
一 沖繩縣ノ區及間切嶋

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入稅ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

法律

第二十四條 收稅官吏ハ毛織物又ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り毛織物又ハ石油、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得
收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得
第十六條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル毛織物又ハ石油ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得
第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス
一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セシテ毛織物又ハ石油ヲ製造シタルトキ
二 擔保物ヲ提供セシテ消費稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル場合ニ於テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引

附則

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入稅ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

九

地租、營業稅、所得稅ニ關シテハ明治三十七年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條ノ課稅制限ハ明治三十七年度ヨリ之適用ス
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ稅目又ハ稅率ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ其ノ牴觸ノ部分ニ限リ其ノ効力ヲ失フ

第二十四條 自用ニ供スルモノヲ除ク外本法施行前ヨリ毛織物又ハ石油ヲ製造シ本邦施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一箇月以内ニ本法ニ依リ政府ニ申告スヘシ

前項ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得
第二十五條 第一種砂糖、糖蜜及石油ニ付テハ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ本法ニ依ル消費稅ヲ課セス

第二種砂糖ニ付テハ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ第二條第五號ヲ適用セス百斤ニ付金二四三錢ノ消費稅ヲ増徴ス

第二十六條 本法施行後保稅倉庫ニ庫入シタル砂糖ニシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ及糖蜜ニ付テハ庫出ノ日ニ於テ行ハル輸入稅率ヲ適用ス

第二十七條 平和克復ニ至リタルトキハ其ノ翌年末日限リ本法ヲ廢止ス

○法律第四號 (明治三十七年三月)
醫藥用工業用酒精稅法中左ノ通改正ス
第一條中「若クハ輸入稅」ヲ削ク「醫藥用又ハ工業」ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル醫藥又ハ工業」ニ改ム

第二條 前條ノ酒精ニシテ工業用ニ供スルモノニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ變性ヲ命スルニトヲ得
第三條中「又ハ輸入稅」ヲ削ル
第四條 削除

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ於テ造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ノ税金下戻ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス但シ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○法律第五號 (明治三十七年三月)
明治三十四年法律第十號中左ノ通改正ス
第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第二條第三號ヲ左ノ如ク改ム
三外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ同日以後製成シタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニシテ本法施行前ニ製成シタルモノヲ外國ニ輸出シタル者ハ仍舊法ヲ適用ス

○法律第六號 (明治三十七年三月)
沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス
第一條中「移出スルトキハ」ノ下ニ「旅客ノ携帶品タルト否トヲ問ハス」ヲ加フ

第二條 命令ヲ以テ定ムル港灣ニ由ルニ非サレハ沖繩縣ニ於テ製造シタル清酒濁酒白酒味淋又ハ燒酎ヲ帝國内ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス

第三條中「船政所」ヲ削ル
法律

第四條第一項中「船政所」ヲ「稅務署」ニ改メ第二項ヲ削ル

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
○法律第七號 (明治三十七年三月)
醬油稅則中左ノ通改正ス
第一條第二項ヲ削ル
第三條 削除
第十五條 削除
第十九條中「第一條第二號」ニ該當セサル者ニシテ「ヲ削ル

第二十一條中「第十五條」ノ申告ヲ爲ササル者「ヲ削ル
第二十三條 削除
第二十九條 削除

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
○法律第八號 (明治三十七年三月)
家用醬油稅法中左ノ通り改正ス

第三條 家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ

六九ノ二 各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク)
二七八 石油

附則

本法ハ發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

○法律第十號 (明治三十七年三月)

輸入原料砂糖戻稅法中左ノ通改正ス

第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

骨炭ヲ濾過セシメスシテ精製糖ヲ製造スル者ハ第一項ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得テ骨炭濾過ニ代ハルヘキ方法ヲ用非タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

精製糖ヲ製造スル輸入原料砂糖ニシテ本法施行前ニ政府ノ承認ヲ得タルモノニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

○法律第十一號 (明治三十七年三月)

間接國稅犯則者處分法中左ノ通改正ス

第十一條 犯則事件ノ證據集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス
稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證據ハ之ヲ所轄稅

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醬油稅則ニ依リ自家用醬油製造ノ申告ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

○法律第九號 (明治三十七年三月)

關稅定率法附屬輸入稅表中左ノ通改正ス

六九ノ一 各種變性アルコール

第一種 一石未満 金五十錢

第二種 二石未満 金一圓

第三種 三石未満 金二圓

第四種 四石未満 金三圓

第五種 五石以下 金四圓

第十一條 左ニ記載スル者ニハ本法ヲ適用セス

一 醬油製造營業人、醬油請賣人

二 料理店、飲食店、旅人宿營業人

三 前二號ノ者ト同シタル者

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項各號ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依リ免許ヲ以テ醬油稅則ニ依リ免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同稅則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造稅ハ之ヲ免除セス

務署收稅官吏ニ引繼ケヘシ

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證據ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼ケヘシ

第十二條中「所屬稅務署」ヲ「所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署」ニ「他ノ稅務署」ヲ「他ノ稅務監督局又ハ稅務署」ニ改ム

第七條第十三條第十四條第十七條第十九條中「稅務管理局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

○法律第十二號 (明治三十七年三月)

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收ス但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納稅人ニ付同一市町村內ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ

法律

前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做スコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マデ地價及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長カ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整齊ヲ監督セムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○法律第十三號 (明治三十七年三月)

沖繩縣滯納稅租延納法

沖繩縣ニ於ケル明治三十五年以前ノ地租ニシテ非常特別稅法施行ノ際滯納ニ係ルモノハ同法施行中其ノ徵收ヲ爲サス

前項ノ地租ハ非常特別稅法廢止ノ年ノ翌年ヨリ十年間

ニ平分シテ之ヲ徵收ス

○法律第十四號 (明治三十七年三月)

煙草專賣法

- 第一條 煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス
- 第二條 煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス
- 第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス
- 第四條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス
- 第五條 煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム
- 第六條 政府ハ毎年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス
- 第七條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ
- 第八條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ届出ヘシ

- 第九條 煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス
- 第十條 煙草苗ノ讓渡及讓受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ
- 第十二條 煙草耕作者前條ノ量目又ハ葉數ノ査定ニシテ前項査定ノ場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ若立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第十三條 煙草耕作者前條ノ量目又ハ葉數ノ査定ニシテ前項査定ノ場合ニ於テハ其ノ査定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
- 第十四條 異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス
- 第十五條 異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目又ハ葉數前項決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額トノ差カ決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額トノ差カ

ヲ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス

- 第十三條 煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ第十一條ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ採除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者其ノ決定前ニ於テ又同シ
- 第十四條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ採除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ
- 第十五條 種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第十六條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ
- 第十七條 納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム
- 第十八條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ
- 第十九條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス
- 第二十條 煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此

法律

- 第二十一條 再鑑定ニ在ラス
- 第二十二條 再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再鑑定等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト再鑑定等級トノ差カヲ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス
- 第二十三條 再鑑定ニ鑑定スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十四條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定若ハ決定シタル量目又ハ葉數以上ノ葉煙草ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十八條第二項ノ規定ニ準シテ算定シタル金額ノ三倍以下ヲ納付セシムルコトヲ得
- 第二十五條 煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ減作地又ハ廢作地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得
- 第二十六條 前項葉煙草ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似煙草耕作地ノ葉煙草生産額及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシテ之ヲ算定ス
- 第二十七條 煙草耕作者其ノ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキ

トキハ政府ハ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得

第二十條 煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、藏置場又ハ其ノ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス

政府ハ必要ト認ムルトキハ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條、第七條、第九條、第十五條、第十六條、第一項及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定スル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十四條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裏ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裏ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十五條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

前項煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ調製シ其ノ營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ノ爲政府ハ一定ノ地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得

煙草自由倉庫及其ノ特許ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ政府ノ指定スル期間内ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲サントスルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ政府ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テハ第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付セシム

第二十七條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二十八條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ輸出ヲ廢止シタルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過キ之ヲ輸出セサルトキハ其ノ使用ニ適スルモノニ限リ政府之ヲ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム

前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ賠償金ヲ交付ス但シ其ノ賠償金ハ第二十五條ニ依リ賣渡價格ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラルタル葉煙草並現在葉煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受ケタル葉煙草ノ總量目ニ比シテ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第二十五條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下ヲ納付セシム

第三十條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラルタル製造煙草並現在製造煙草ノ總量目カ政府ヨリ

第三十一條 政府ハ標本ニ供スルモノニ限リ葉煙草ヲ交付シ又ハ煙草ノ輸入ヲ許可スルコトヲ得

標本ニ供スル煙草ハ許可ヲ受ケ標本トシテ他ニ讓渡シ又ハ試驗ノ用ニ供シ又ハ廢棄スルノ外之ヲ處分スコトヲ得ス

第三十二條 健康上若ハ習慣上缺クヘカラサル製造煙草ハ自用ニ供スルモノニ限リ自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸入スルコトヲ得

第三十三條 輸出ノ爲買受ケタル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造費用ノ器具機械及巻紙ヲ所持シ、讓渡シ若ハ讓受ノルコトヲ得ス

前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於

テ之ヲ處分ス

第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用ス
ヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條 煙草製造費用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ
許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又
ハ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條 煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造專用ノ
器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者本法又
ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府
ハ耕作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得
第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥
場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械
及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙
草製造器具機械及卷紙ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處
分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ検査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關
係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシム
ル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之
ヲ差引スルコトヲ得

トキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係
ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ沒收ス

第四十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ非スシ
テ第二十條第一項ニ違反シ又ハ政府ノ指定シタル通
路若ハ時間ニ依ラスシテ葉煙草ヲ運送シタル者ハ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙
草ハ之ヲ沒收ス

第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指
定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサルトキハ三圓
以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又
ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ
罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヨ
リ讓受ケタル者亦同シ

情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓
以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ
又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者十圓以上五百圓以下ノ
罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス
第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者

法律

十八

第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵
收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條 第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者
ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル
煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス許可ヲ受ケスシテ試作
ヲ爲シタル者亦同シ

第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ
耕作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類
ノ煙草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草苗ヲ讓渡
シ若ハ讓受ケタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ葉煙草
ヲ乾燥シ又ハ藏置シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ
罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五圓以上百
圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓
以下ノ罰金ニ處シ其犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄
スヘキ者其ノ葉煙草ヲ收穫シ又ハ種子ヲ採取シタル
ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 煙草輸出者帳簿ヲ製シ又ハ其ノ記載
ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ拾圓以上百
圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三圓以上十圓
以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル
者亦同シ

第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ
讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ
犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條 第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百
圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シ
タル者亦同シ

第五十六條 許可ヲ受ケサル者ノ耕作者ハ試作シタル
葉煙草又ハ煙草耕作者、試作者ニ非サル者ノ育成シ
タル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗
ヲ所持スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其
ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

十九

第五十七條 第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ、又ハ讓受シタル者ハ煙草賣捌人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ハ在リテハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ヲ之ヲ沒收ス

第五十八條 私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品並其ノ原料製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第六十二條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辨ヲ爲シ

又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ニ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加メタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製造者、販賣者若ハ廢置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第六十五條 煙草耕作者、試作者煙草賣捌人、煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ廢置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者雇ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法人具又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罪ヲ免カル、コトヲ得ス

第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本

法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十七條 間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項刻煙草ノ製造及其ノ原料ニ供スル葉煙草ノ賣買ニ關シテハ明治三十八年三月三十一日迄本法ノ規定ヲ適用セス仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依ル煙草耕作者ト看做ス

第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年六月三十日ニ現在スル煙草製造專

法律

用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造専用ノモノヲ除ク

二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造専用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第七十二條 明治三十七年六月三十日ニ現在スル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ葉煙草賣買業者ニ限リ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スルコトヲ得但シ外國產葉煙草ニ限リ明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十三條 本法發布ノ際ニ現在スル煙草製造用ノ建築物其ノ敷地及其ノ製造場備附ノ煙草製造用ノ器具機械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

政府ハ本法發布ノ後煙草製造業者ノ營業場ニ就キ前項ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ調成ス

徵收目錄ハ本法發布後六十日以内ニ之ヲ所有者ニ告知ス

前項ノ告知後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第七十四條 煙草製造業者ノ所有ニ係ル煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件並其ノ現ニ使用スル煙草製造及裝置用器具機械ニシテ第七十條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ刻限以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限リ刻限煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限ル

前項ニ依リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量並器具機械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付ス但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收又ハ買上ヲ受ケサ

議定ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日以内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ裁定ス

鑑定人ニ關スル規定ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 第七十條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十七年七月五日迄ニ同條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲サ、ルトキハ其ノ物件ノ廢置ニ關シテハ第三十六條及第六十條ヲ適用セズ

前項ニ依リ申告ヲ爲サタル物件ノ廢置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第三十六條ヲ適用スセ

第七十九條 第七十條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此期限ヲ過キ申告ヲ爲サ、ルハ其ノ物件ノ廢置ニ關シテハ第五十六條ノ例ニ依リ處分ス

第八十條 第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻限煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五

法 律

二十二

ル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ増給ス

煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタル者ニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依ル

第一項ニ煙草製造業者トアルハ刻限煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄刻限煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ破相續人ノ營業ミタル

煙草製造業者ヲ繼續シタル場合ニ於テ破相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第七十六條 第七十五條第一項ノ賣渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ政府之ヲ決定ス

第七十七條 第七十條第七十三條ノ補償價格及第七十二條第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協

日迄ニ刻限煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 第七十五條ニ依ル交付金ノ請求ハ刻限煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ刻限煙草製造業者ニ在リテハ明年三十八年六月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻限煙草製造業者ノ明治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻限煙草ハ本法ノ規定ニ依ラス之ヲ所持シ讓渡シ又ハ之ヲ讓受ケルコトヲ得

政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草ニ包裹ヲ施シシメ玆一定ノ証票ヲ貼付セシムルコトヲ得

前項ニ依ル命令ニ違反シ包裹ヲ施サス又ハ證票ヲ貼附セサル製造煙草ニ關シテハ第三十四條及第五十七條ヲ適用ス

第八十三條 煙草製造業者又ハ製造煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十七年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻限煙草ノ種類數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

二十三

第八十四條 本法施行後政府ノ賣渡ササル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治三十七年七月以後毎月末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十五條 第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用セス

第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス

本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草之ヲ沒收ス

第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セス

明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二

條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ニ交付金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス

第七十條、第七十三條ノ補償金及第七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付スルコトアルヘシ

國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス

國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノ、外整理公債條例ニ準據ス

○法律第十五號 (明治三十七年三月)

臺灣事業公債法中改正法律

第一條 「三千五百萬圓」ヲ「四千百萬圓」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

五 大租權整理

○法律第十六號 (明治三十七年三月)

渡其瀨川沿岸地方特別地價修正法律

第一條 栃木縣足利郡、安蘇郡、下都賀郡、群馬縣山田

郡、新田郡、邑樂郡、茨城縣猿島郡、埼玉縣北埼玉郡ニ於ケル田畑ニシテ銅分ノ爲土壤變質シタルモノハ本法ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

第二條 前條ノ土地ニ付テハ被害ノ情況ニ依リ政府ノ定メタル等級ニ從ヒ左ノ割合ヲ以テ現在地價ヲ低減シテ其ノ地價ヲ修正ス

- 一等 八割 二等 六割 三等 五割
- 四等 四割五分 五 四等割 六等 三割五分
- 七等 三割 八等 二割五分 九等 二割
- 十等 壹割五分

附則

本法ニ依リ修正シタル地價ハ明治三十七年分以後ノ地租ニ付之ヲ適用ス但シ免租年期ヲ有スル土地ニ付テハ免租年期明ニ至リ之ヲ適用ス

○法律第十七號 (明治三十七年三月)

記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律

民法第三百六十四號第一規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適用セス

○法律第十八號(明治三十七年三月)

法律

貯蓄債券法

第一條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

第二條 貯蓄債券ハ無記名利札附ニシテ券面金額ヲ五圓トス

第三條 貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ二十箇年以内ニ毎年一回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ割増銀一箇ノ金額ハ券面金額ノ百倍以内トス

第四條 貯蓄債券ニ付スヘキ利子ノ割合ハ一箇年百分ノ四以内トシ毎年一回之ヲ仕拂フモノトス

第五條 貯蓄債券ニハ商法第九十九條乃至二百五條ヲ適用セス

第六條 貯蓄債券及其ノ引換證ニハ印紙稅ヲ免除ス

第七條 日本勸業銀行ハ貯蓄債券ノ募集金ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第八條 貯蓄債券ニハ日本勸業銀行法第四十條及第四十一條ヲ適用ス

第九條 貯蓄債券ノ發行額ハ一箇年三千万圓ヲ以テ限

リトス

附則

第十條 本法ハ明治三十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條 本法ニ依ル債券ノ發行ハ非常特別税法施行
中ニ限ルモノトス

○法律第十九號(明治三十七年三月)

軍人恩給法中改正ノ件

第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ
受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階ニ從ヒ左ノ各
號ニ依リ之ヲ給ス

一 戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者ニ在リテハ第三號表
甲號ノ金額

二 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ第四條第三ニ原由スル
疾病ニ罹リタル者ニ在リテハ第三號表乙號ノ金
額

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當
リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者
ニ之ヲ給ス

一 戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケ現役ヲ離レタルトキ
二 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ第四條第三ニ原由ス

疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第十五條 賑恤金ハ前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾
病ニ罹リタルトキノ現官階ニ應シ前條第一ニ當ル者
ハ第三號表甲號六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十三箇
年分ヨリ多カラス前條第二ニ當ル者ハ同表乙號第六
項ノ一箇年分ヨリ少カラス十三箇年分ヨリ多カラス
ル金額トス

第十七條 第一項第三號中「士官」ヲ「准士官」ニ改メ第
二項中「下士以上初任ノ日」ノ下ニ「但シ給助金ヲ受
ケタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ其ノ再服役ノ日
ニ加フ

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ
軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其ノ軍人現役中
ヨリ引續キ同一戸籍内ニ在ル者ニ限リ寡婦ハ尙陸海
軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル

附則
第二號表乃至第五號表ヲ別表ノ如ク改ム

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治三十七年二月
六日以後本法施行ノ日迄ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當シ
タル者又ハ其ノ遺族ニ給スヘキ金額ハ本法ノ規定ニ依

ル

一 戰死シタル者

二 戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケ死歿シ又ハ現役ヲ離レタル
者

三 戰地公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ戰
地ニ於テ流行病ニ罹リ死歿シ若ハ現役ヲ離レタ
ル者

本法施行以前免除恩給、増加恩給、賑恤金、給助金又
ハ扶助料ヲ受ケヘキ權利發生シタル者ニ給スヘキ金額
ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外總テ從前ノ規定ニ依ル
從前ノ規定ニ依リ免除恩給ヲ受ケ死歿シタル者ノ遺族
ニ給スヘキ扶助料及扶助料ヲ受クルノ權利消滅シタル
爲輕給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ從前ニ
依ル

第十七條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役
ヲ離レタル者及現役中若ハ現役ヲ離レタル後死歿シタ
ル者ニ關シ之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ基キ給スヘキ退職恩給、増加恩給、給助
金又ハ扶助料ノ金額ハ軍人現役ヲ離レ又ハ現役中死歿
シタル當時ノ規定ニ準據シ其ノ支給ハ本法施行ノトキ

法律

二十六

ヨリ起算ス

第四項ノ規定ニ基キ恩給ヲ受ケムトスル者ハ本法施行
ノ日ヨリ三箇年以内ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス
別表零ス

二十七

○勅令第十一號 (明治三十七年一月二十二日)

防禦海面令

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依ル防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令長官要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎮守府司令長官、要港部司令官之告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎮守府司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻其ノ他軍事上障害トナルヘキ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

勅令

ヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シテ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ遵ハサルモノニ對シテハ必要ニ應シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ重禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第十二號 (明治三十七年一月二十三日)

鐵道軍事供用令ノ件

第一條 本令ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株式會社ヲ謂フ

本令ニ於テ軍事輸送ト稱スルハ特ニ準備シタル列車
ニ依リ又ハ普通列車中一車輛以上ヲ専用シテ陸海軍
部隊及其ノ携行シ又ハ之ニ宛テ運送スル馬匹及軍需
品ヲ輸送スルヲ謂フ

本令ニ於テ軍用列車ト稱スルハ軍事輸送ノ爲特ニ準
備シタル列車ヲ謂フ

第二條 會社ハ陸海軍官憲ノ要求ニ從ヒ軍事輸送ヲ爲
スヘシ

軍用列車ニハ陸海軍官憲ノ承認アルトキハ郵便物ヲ
搭載シ又ハ郵便車ヲ聯結スルコトヲ得

第三條 會社ハ他ノ會社ヨリ軍事輸送上必要ナル補助
ヲ請求セラレタルトキハ業務ニ支障ナキ限り之ニ應
ズヘシ

第四條 軍用列車ハ搭載地ヨリ卸下地迄直通ノ運轉ヲ
爲スヘシ

第五條 乗用ニ供スル車輛ハ將校、同相當官、准士官及
軍屬タル高等文官若ハ之ニ準スヘキ者ニ在リテハ一
等又ハ二等客車、下士卒及判任文官以下ノ軍屬ニ在
リテハ三等客車トス

前項車輛ノ乗車人員ハ普通旅客定員ノ十分ノ八ヲ標

準トス

第六條 馬匹ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ

第七條 獸用器材ハ無蓋貨車ニ搭載シ其ノ他ノ軍需品
ハ其ノ種類及形狀ニ應シ有蓋貨車又ハ無蓋貨車ニ搭
載スヘシ

第八條 客車ニハ普通旅客ニ供スルト同一ノ設備ヲ爲
シ第六條ノ貨車ニハ燈器、敷設及馬栓棒若ハ胸板ヲ
備ヘ第七條ノ貨車中取用車輛ヲ搭載スルモノニハ搭
載品固定用ノ木楔釘等ヲ備フヘシ

第九條 車輛ノ缺乏其ノ他己ヲ得サル場合ニ於テ陸海
軍官憲ノ承認アルトキ又ハ陸海軍官憲ノ要求アル場
合ニ於テ會社ニ支障ナキトキハ第四條乃至第八條ノ
規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 軍事輸送ニ供スル車輛ハ清潔ニ掃除シ必要ナ
ル場合ニ於テハ消毒ヲ爲スヘシ

第十一條 會社ハ馬匹及軍需品ノ積卸ノ爲ニ要スル
踏板及輸送上必要ナル雨覆等ヲ準備スヘシ

第十二條 會社ハ軍事輸送ニ際シ停車場内ノ點燈、公
衆待合所、乗降場、廁等ヲ軍用ニ供スヘシ

第十三條 陸海軍官憲ニ於テ軍事輸送ニ際シ搭載卸下

ノ爲必要ナル補足工事又ハ特別ノ施設ヲ爲サントス
ルトキハ會社ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ供用線ニ屬
スル土地建物機械器具又ハ材料ノ供用ヲ拒ムコトヲ
得ス

會社ニ於テ前項ノ工事又ハ施設ヲ爲スヘキ要求ヲ受
ケタルトキハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得
ス前二項ノ場合ニ於テ供用ノ費用又ハ工事若ハ施設
ニ要スル費用ハ之ヲ補償ス但シ其ノ金額ハ陸軍大臣
又ハ海軍大臣遞信大臣ト協議シテ之ヲ決定ス

第十四條 會社ハ陸海軍官憲ノ要求アルトキハ無償ニ
テ其ノ電信電話ニ依リ軍事輸送上直接ニ必要ナル通
信ヲ取扱フヘシ

第十五條 軍事輸送ノ料金ハ別表ニ依リ之ヲ交付ス
前項ノ料金ハ陸海軍官憲會社ト協議シテ之ヲ低減ス
ルコトヲ得

第十六條 軍事輸送ノ實施ニ關スル規定ハ陸軍大臣海
軍大臣遞信大臣協議シテ之ヲ定ム

第十七條 前數條ノ規定ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス
第十八條 第二條第一項及第十三條ノ規定ニ違反シタ
ルトキハ取締役ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ

勅令

重禁錮ニ處シ第三條第四條第六條乃至第八條及第十
四條ノ規定ニ違反シタルトキハ取締役ヲ百圓以下ノ
罰金又ハ三月以下ノ重禁錮ニ處シ第十條乃至第十二
條ノ規定ニ違反シタルトキハ取締役ヲ五十圓以下ノ
罰金又ハ一月以下ノ重禁錮ニ處ス

附則

本令ハ明治三十七年一月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第十九條 (明治三十七年二月)

軍事郵便物ノ件

第一條 軍事郵便ノ取扱ヲ開始セタル場合ニ於テハ左
ニ掲クルモノヲ軍事郵便物トナスコトヲ得

一 戰時又ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ准スヘキ地ニ
在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、艦、水雷艇、軍
術、軍人又ハ軍屬ヨリ發スル郵便物

二 戰時又ハ事變ニ際シ戰事又ハ之ニ准スヘキ地ニ
在ル者ニシテ當該軍術ノ許可ヲ得ル者ヨリ發
スル郵便物

三 前二號ニ掲クル者ニ宛テ發スル郵便物

第二條 前條第一號及第二號ニ依リ軍事郵便其料金之
免除ス

三

第三條 第一條第三號ニ依ル軍事郵便物ハ料金完納ノ

者ニ限ル其料金未納又ハ不足ノモノハ差出人ニ還付

シ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第四條 軍事郵便物ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設ケ

ルコトヲ得

第五條 軍事郵便物取扱ニ關スル損害賠償ハ命令ヲ以

テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六條 條約ニ依リテ取扱フ郵便物ハ第二條乃至第五

條ヲ適用セス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

勅令第二十一號 (明治三十七年二月)

戰時又ハ事變ニ際シ公使官職員臨時職員ヲ置ク件

第一條 戰時又ハ事變ニ際シ在外公館職員定員令第一

條ノ定員ノ外ニ臨時左ノ職員ヲ置クコトヲ得

特命全權公使及辨理公使ハ通シテ四人

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書

記官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シ

テ十人

勅令第二十三號 (明治三十七年二月)

戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ陸軍ノ事

務ニ從事スル者ノ待遇ノ件

戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ陸軍ノ事務ニ從事

スル者ハ其職務ニ應ジ委任官又ハ判任官ノ待遇ト爲ス

コトヲ得

總領事及領事ハ通シテ五人

外務書記生及外務通譯生ハ通シテ二十人

本條ニ依リ置キタル職員ハ在外公使ニ屬セシメス隨

時ノ職務ニ從事シムルコトヲ得

第二條 戰時又ハ事變ニ際シタルカ爲外國在勤ヲ免

シタル外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯

官及公使館二等通譯官ハ在外公館職員定員令第二條

ノ定員外ト爲スコトヲ得

勅令第二十二號 (明治三十七年二月)

公使館領事館費用條例中改正ノ件

第七條ノ二 戰時又ハ事變ニ際シ本住所ナキニ至リテ

ル場合ニ於テ從前ノ兼任國又ハ兼任地ニ在勤ヲ命セ

ラレタル外交官、領事官及外務書記生ノ在勤俸ハ當

該本住所ノ在勤俸ニ依ル但前ニ在勤俸ノ定アルモノ

ハ此ノ限ニアラス

前項ノ外交官、領事官及外務書記生ニシテ當該本任

所ニ在勤シタルモノナルハハ轉勤シタル者ト看做ス

第二項ノ場合ニ於テ本住所ヲ引揚ケタル公使一時從

前ノ兼任國ニ駐在スルトキハ其ノ駐在中從前ノ本任

所ノ在勤俸及前條第二項ノ在勤俸ヲ給ス

第二十條ノ二 海軍大臣ニ於テ戰時若クハ事變ニ際シ

禁劇ノ職務ニ從事スル官衙ノ軍人軍屬ニ食事ヲ爲サ

シムル必要アリト認ムルトキハ現品又ハ現金ヲ適宜

給スルコトヲ得

勅令第二十七號 (明治三十七年二月)

捕獲審檢所及高等捕獲審檢所ニ關スル件

四

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第二十八號 (明治三十七年二月)

臨時取締ノ爲長崎縣ニ警視及警部ヲ置クノ件

長崎縣對馬島ニ於ケル臨時取締ノ爲長崎縣ニ警視一人

及警部三人ヲ置ク

前項ノ警視ハ嚴原警察署長ニ補シ警部ハ嚴原警察署又

ハ其ノ分署ニ屬セシム

勅令第二十九號 (明治三十七年二月)

戰時又ハ事變ノ際ニ於ケル陸軍服制ニ關スル

件

戰時又ハ事變ニ際シ陸軍將校同相當官及准士官軍衣ノ

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

勅令第二十六號 (明治三十七年二月)

戰時給與規則中改正ノ件

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

勅令第二十六號 (明治三十七年二月)

戰時給與規則中改正ノ件

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

勅令第二十六號 (明治三十七年二月)

戰時給與規則中改正ノ件

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

勅令第二十六號 (明治三十七年二月)

戰時給與規則中改正ノ件

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

勅令第二十六號 (明治三十七年二月)

ノ夏衣同様ノ製式(地質ハ深紺絨又ハ紺絨、袖章ハ黒線
卸數ハ五個又ハ六箇)將校ノ以下ノ夏衣、夏袴、日覆及
布垂ハ茶褐色ト爲スコトヲ得

○勅令第三十號 (明治三十七年二月)

陸軍服制中改正ノ件

陸軍服制中左ノ通改正ス

將校服制圖例中左ノ如ク改ム

劔ノ部主計正乃至獸醫正ノ欄及主計乃至上等計手ノ欄
全部ヲ削ル

刀ノ部名稱ノ欄中「將官」ヲ「將官及相當官」ニ改メ「輜
重兵佐官」ノ次ニ「佐官相當官」ヲ「上等工長」ノ次ニ「尉
官相當官」ヲ「上等工長」ノ次ニ「上等計手」ヲ加フ
劔帶ノ部主計正乃至獸醫ノ欄及上等計手ノ欄全部ヲ削
ル

刀帶ノ部名稱ノ欄中「將官」ヲ「將官及相當官」ニ改メ
「輜重兵尉官」ノ次ニ「佐尉官相當官」ヲ「上等工長」ノ次
ニ「上等計手」ヲ加ヘ品質ノ欄中「將官及佐官」ヲ「將官
及相當官並上長官」ニ「尉官及樂長」ヲ「士官」ニ改ム
劔緒ノ部主計正乃至獸醫ノ欄及上等計手ノ欄全部ヲ削
ル(別圖零ス)

六

下士兵卒服制備考ニ左ノ一項ヲ加フ

三、後備隊下士以下ハ肩章記號ノ外衣ノ襟部右端ニ

後備隊ヲ編成スル野戰聯隊又ハ大隊ノ番號(品

質白銅)ヲ附ス但シ近衛後備騎兵、砲兵及工兵

隊ノ下士以下ニ在リテハ特別ノ徽章ヲ以テ番號

ニ代フ其形狀圖ノ如シ

同服制圖襟部徽章ノ部ニ左ノ圖ヲ加フ(圖零ス)

附則

經理部、衛生部及獸醫部ノ上長官、士官及上等計手ハ
當分ノ内從前ノ服制ニ依リ劔、劔帶、及劔緒ヲ用ウルコ
トヲ得明治二十三年勅令第七十三號ハ之ヲ廢止ス

○勅令第三十一號 (明治三十七年二月)

臨時海軍監獄ニ關スル件

第一條 臨時海軍法會議又ハ海軍合圍地軍法會議ヲ
設ケタルトキハ其ノ開設ノ期間其ノ地ニ臨時海軍監
獄ヲ置クコトヲ得

第二條 臨時海軍監獄ハ囚人及刑事被告人ヲ拘留留置
スル所トス

第三條 各臨時海軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク
海軍監獄長

海軍監獄書記 一人

海軍監獄看守長 二人

海軍監獄看守 五人

前項ノ職員ハ本職アル者ヲ以テ兼務セシム

第四條 臨時海軍監獄ハ臨時海軍法會議又ハ海軍合

圍地軍法會議ヲ管轄スル長官之ヲ管掌ス

長官ハ監獄職員ノ關員中又ハ必要アル場合ニ於テハ

部下ノ海軍軍人又ハ海軍軍屬ヲシテ其ノ職務ヲ執ラ

シムルコトヲ得

第五條 臨時海軍監獄ノ獄舎並囚人及刑事被告人ノ取

扱ニ關スル規程ハ長官適宜之ヲ定ム

○勅令第三十二號 (明治三十七年二月)

戰事又ハ事變ニ際シ臨時外務省ニ屬クテ置ク

件

戰時又ハ事變ニ際シ臨時外務省ニ屬十二人ヲ置クコト

ヲ得

○勅令第三十三號 (三十七年二月)

明治二十七年勅令第八十八號改正ノ件

明治二十七年勅令第八十八號左ノ通り改正ス

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル巡査看守

勅令

ニハ其間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

○勅令第三十六號 (明治三十七年二月)

戒嚴令

長崎縣長崎要塞地帶及之ニ關スル要塞地帶法第七條第
二項ノ區域内ヲ臨戰地境ト定メ本令發布ノ日ヨリ戒嚴
ヲ行フコトヲ宣告ス

長崎要塞司令官ヲ以テ前項戒嚴地ノ司令官トス但シ戰
時指揮官ヲ置キタル場合ニ於テハ戰時指揮官ヲ以テ其
ノ司令官トス

○勅令第三十七號 (明治三十七年二月)

戒嚴令

長崎縣佐世保要塞地帶及之ニ關スル要塞地帶法第七條
第二項ノ區域内ヲ臨戰地境ト定メ本令發布ノ日ヨリ戒
嚴ヲ行フコトヲ宣告ス

佐世保鎮府守司令官ヲ以テ前項戒嚴地ノ司令官トス
但シ戰時指揮官ヲ置キタル場合ニ於テハ戰時指揮官ヲ
以テ其ノ司令官トス

○勅令第三十八號 (明治三十七年二月)

戒嚴令

七

長崎縣對馬嶋及其ノ沿海ヲ臨戰地境ト定メ本令發布ノ
日ヨリ戒嚴ヲ行フコトヲ宣告ス
竹敷要港部司令官ヲ以テ前項戒嚴地ノ司令官トス但シ
戰時指揮官ヲ置キタル場合ニ於テハ戰時指揮官ヲ以テ
其ノ司令官トス

○勅令第三十九號 (明治三十七年二月)

戒嚴令

北海道函館要港地帯及之ニ關スル要港地帯法第七條第
二項ノ區域内ヲ臨戰地境ト定メ本令發布ノ日ヨリ戒嚴
ヲ行フコトヲ宣告ス

函館要港司令官ヲ以テ前項戒嚴地ノ司令官トス但シ戰
時指揮官ヲ置キタル場合ニ於テハ戰時指揮官ヲ以テ其
司令官トス

○勅令第四十號 (明治三十七年二月)

長崎縣對馬島國書記技手臨時増置ノ件

長崎縣對馬島屬ニ於ケル臨時事務ノ爲島廳書記及島廳
技手通シテ八人ヲ置クコトヲ得

○勅令第四十二號 (明治三十七年二月)

外務通譯生ヲ外務書記生ニ任用スル件

外務通譯生ニシテ滿二年以上公使館、領事官又ハ貿易

事務官ニ勤務シタル者ハ普通文官試驗委員ノ銜ヲ經
テ外務書記生ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ任用シタル外務書記生ノ在勤地ハ前官ノ任
國內ニ限ル但シ其ノ在職滿一年以上ヲ經タルモノハ此
限ニ在ラス

○勅令第四十三號 (明治三十七年二月)

整理公債條例中改正ノ件

第四條中「無記名利札附ニシテ五千圓千圓五百圓百圓
五十圓ノ五種トス」ヲ「無記名利札附トス」ニ改ム
第五條中「様式」ヲ「種類及様式」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第四十四號 (明治三十七年二月)

俘虜情報局設置ノ件

第一條 俘虜情報局ハ之ヲ東京ニ置キ左ノ事務ヲ掌ル
一 俘虜ノ留置移動入院及死亡ニ關スル狀況ヲ調査シ
其ノ銘々票ヲ編製スルコト

二 俘虜ニ關スル狀況ノ通信ニ關スルコト

三 俘虜ニ對スル寄贈及俘虜ノ發送ニ係ル金錢及物品
ノ取扱ニ關スルコト

四 俘虜死亡者ノ遺留品及遺言品ヲ保管シ且之ヲ遺族
其ノ他ノ關係者ニ送付スルコト

五 敵國戰死者ニ付陸海軍軍隊ニ於テ知得スル事項又
ハ其ノ遺留品及遺言書アルトキハ俘虜ニ準シ其ノ
取扱ヲ爲スコト

第二條 俘虜情報局ニ長官一人事務官二人ヲ置ク

長官ハ陸軍將官又ハ陸軍大佐、事務官ハ陸海軍佐尉
官又ハ奏任文官ヨリ之ヲ補ス

俘虜情報局ニ書記七人ヲ置ク書記ハ判任トス

事務官及書記ハ必要ニ應ジ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 長官ハ陸軍大臣ニ隸シ局中一切ノ事務ヲ掌理
ス

第四條 長官ハ其ノ所管事務ニ付陸海軍官憲及病院又
ハ總帶所ニ所要ノ通報ヲ求ムルコトヲ得

第五條 事務官ハ長官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○勅令第四十五號 (明治三十七年二月)

陸軍現役軍人婚姻條例

第一條 陸軍現役軍人婚姻ヲ爲サントスルトキハ將官
同相當官ニ在リテハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ勅許ヲ仰

勅令

キ、上長官士官ニ在リテハ陸軍大臣、准士官以下ニ在
リテハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 現役下士兵卒及諸生徒ハ婚姻ヲ爲スコトヲ許
サス但シ滿六年以上服役ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 現役軍人婚姻ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ所
屬部隊長ヲ經テ出願スヘシ

部隊長前項ノ願出ヲ受ケタルトキハ其ノ配偶者ト爲
ルヘキ者ノ身元、教育、性行、資産、其ノ他婚姻ノ
許可ニ付キ參考トナルヘキ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ
順序ヲ經テ進達スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍武官結婚條例ハ之ヲ廢止ス

○勅令第四十六號 (明治三十七年二月)

海軍高等武官補充條例中改正ノ件

第十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

戰時若ハ事變ニ際シテハ定規ノ實務練習ヲ爲サシメ
サルコトヲ得

第十四條ノ二 戰時若ハ事變ニ際シ定規ノ實務練習ヲ
爲ササル候補生ノ候補名簿ノ順序ハ左ノ規定ニ依リ

九

一海軍兵學校及海軍機關學校ヲ卒業シタル者ニ關シ
テハ卒業試験ノ得點ニ依ル

二少軍醫候補生ニ關シテハ採用試験ノ得點又ハ採用
ノ際席次ヲ定ムル爲ニ行フ試験ノ得點ニ依ル

三少藥劑士候補生、少主計候補生及水路少技士候補
生ニ關シテハ採用試験ノ得點ニ依ル

第二十七條 第二號中「戰地」ヲ「戰時」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第四十七號 (明治三十七年二月)

徵兵事務條例中改正ノ件

第十條 第二條ノ徵兵官事故アルトキハ聯隊區司令官
及警備隊司令官ニ在リテハ師團長ニ於テ其ノ部下ノ
佐官又ハ尉官ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシメ嶋司及郡
市區長ニ在リテハ各其ノ職務ヲ代理スル者徵兵官ノ
職務ヲ行フ

第十一條 削除

第十二條 削除

第十七條 削除

第二十三條 第二項中「聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊

十

區徵兵參事員ニ通知シ且」ヲ削ル

第二十四條第一項中「及徵兵參事員」ヲ削ル

第二十八條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

抽籤ハ徵兵官及町村長列席ノ上抽籤總代人ヲ爲ス

モノトス

抽籤總代人ハ徵兵官其ノ年ノ壯丁ニ就キ市町村長東
市、京都市、大阪市ニ在

リテハ區長以下同シ

員適宜トス

第四十四條及第五十條中ノ割註ヲ削ル

第五十八條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ届出ヲ爲シタル其者ノ事故止ミタルトキハ直
ニ島司郡市長ニ届出ツヘシ

第五十八條ノ二 一聯隊區内又ハ一警備隊區内ノ各徵
募區ノ身體檢査終決前

前條第二項ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シテハ該區内便
宜ノ徵兵所ニ於テ身體檢査及抽籤ヲ行フヘシ其ノ抽

籤ハ第五十三條第四項ノ例ニ依ル

第六十條中「徵兵參事員ノ手當金、旅費」ヲ削ル

第六十六條 削除

附則

兵集合地ニ於テ「」ヲ「當該隊長」ノ下ニ「近衛入營兵受
領員」ヲ加フ

第十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊區司令官、區長又ハ支廳長事故アルトキハ徵
兵事務條例第十條ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第四十八號 (明治三十七年二月)

徵兵事務條例補則中改正ノ件

第三條 削除

第四條 削除

第五條第一項ヲ削リ同條第二項中「第三項」ヲ削リ「三
月一日迄」ノ下ニ「三月一日以後事故ノ生シタ」ヲ加フ

第六條中「第二項及第三項」ヲ削ル

第七條 削除

第九條第一項中「之ヲ」ノ下ニ「近衛師團」ヲ加ヘ第三項
ヲ左ノ如ク改ム

現役兵入營後ニ於ケル缺員ハ徵兵事務條例第四項第
一項及第五項ノ區域内ニ在ル補充兵ヲ以テ之ヲ補充

ス但シ近衛兵ト爲リタル者ノ缺員ハ第六師管ヨリ補
充ス

前項補充兵ノ配賦ハ補充ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ
之ヲ定ム

第十條中「及沖繩警備隊區」及「明治三十年勅令第二百
五十八號第二項」ヲ削ル

第十一條中「引率シ」ノ下ニ「入營地又ハ近衛、海軍入營

地」ヲ定ム

勅令

○勅令第五十一號 (明治三十七年二月)

兵集合地ニ於テ「」ヲ「當該隊長」ノ下ニ「近衛入營兵受
領員」ヲ加フ

第十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊區司令官、區長又ハ支廳長事故アルトキハ徵
兵事務條例第十條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第五十號 (明治三十七年二月)

俘虜及拿捕シタル船舶ノ乘員並ニ之ニ
準スヘキ者ノ給與ニ關スル件

帝國權内ニ在ル俘虜及拿捕シタル船舶ノ乘員並ニ之ニ
準スヘキ者ニハ必要ニ應シ糧食被服消耗品等ヲ現品又
ハ代金ヲ以テ給與ス

前項ニ依リ給與スルモノノ品種及數量ハ陸軍大臣海軍
大臣之ヲ定ム

十一

戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ海軍ノ事務ニ從事スル者ノ待遇ノ件

戰時又ハ事變ニ際シ官吏ニ非スシテ海軍ノ事務ニ從事スル者ハ其ノ職務ニ應ジ奉任官又ハ判任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

○勅令第五十二號 (明治三十七年二月)
海軍戰時給與規則中改正ノ件

第十一條ノ二 艦船ニ在ル准士官以上、候補生、及文官ニ糧食ヲ給與スル場合ニ於テ別ニ炊爨セシムル必要アルトキハ食數ニ應ジ食料ヲ給シ糧食ヲ自辨セシムルコトヲ得

前項ノ食料ニ關シテハ海軍糧食條例第八條及前條ノ例ニ依ル

○勅令第五十三號 (明治三十七年二月)

公立學校職員俸給令中改正

第十五條中「特別ノ事情アルトキハ俸給」ヲ「戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲休職トナリタル場合ニハ俸給ノ一部、其ノ他特別ノ事情アル場合ニハ其」改ム

○勅令第五十四號 (明治三十七年二月)

政府ノ工事請負契約解除ニ關スル件

戰時ニ際シ政府ノ都合ニ依リ工事請負ノ契約ヲ解除シタル後更ニ其ノ工事ニ著手スルトキハ前契約ト同一又ハ之ニ相應スル割合ニ依ル條件ヲ以テ同一請負人ニ之ヲ請負ハシムルコトヲ得

○勅令第五十五號 (明治三十七年三月)

捕獲審檢令中改正

第二條 各捕獲審檢所ニ長官一人及評定官八人ヲ置シ長官ハ勅任判事ヲ以テ之ニ補ス

評定官ハ左ノ各職ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ補ス

一判事

二海軍將校

三海軍省參事官及主理

四法制局參事官

五外務省參事官、外務書記官、外交官及領事官

第五條 各捕獲審檢所ニ檢察官三人、高等捕獲審檢所ニ檢察官二人ヲ置ク

檢察官ハ主理、檢事及高等行政官ノ中ヨリ之ニ補ス
第五條ノ二 高等捕獲審檢所ニ事務官一人ヲ置キ高等行政官ヲ以テ之ニ補ス

第六條中「檢察官」ノ下ニ並ニ「高等捕獲審檢所事務官」ヲ加フ

第七條 各捕獲審檢所及高等捕獲審檢所ニ書記ヲ置シ書記ハ判任官ノ中ヨリ各長官之ヲ命ス

第八條 各捕獲審檢所ノ審檢ハ首席及評定官ヲ併シテ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但内二人ハ判事ヨリ補セシラレタル者タルヘシ

高等捕獲審檢所ノ審檢ハ首席及評定官ヲ併セテ七人以上ノ列席合議ヲ要ス

第十條第一項中「直ニ審檢所ニ供述書ヲ差出スヘシ」ヲ「供述書ヲ添ヘ之ヲ審檢所ニ引渡スヘシ但其船舶ヲ致引シ難キ事由アルトキハ供述書ノミヲ提出スルコトヲ得」ニ改メ

第十一條ノ左ノ二項ヲ加フ
擔任評定官前項ノ手續ヲ了ヘタルトキハ拿捕シタル船舶及其ノ搭載物件ヲ臨檢シテ船長ヲ立會ハシメ詳細ナル物件目錄ヲ調製スヘシ
前條第一項但書ノ場合ニ於テハ前項ニ依ラサルコトヲ得

第十二條ノ二 擔任評定官必要アリト認ムルトキハ艦

機 令

定人ヲ命シ事項ヲ指定シテ之ヲ鑑定セシムルコトヲ得

第十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ公告ニハ利害關係人ハ公告ノ翌日ヨリ起算シテ三十日以内ニ書面ヲ以テ訴願スルコトヲ得ル旨ヲ記載シ之ヲ官報及帝國内ニ於テ外國語ヲ以テ發刊スル二種ノ新聞紙ニ掲載スヘシ

第十七條ノ左ノ一項ヲ加フ

訴願人ハ帝國ノ辯護士ニ限り之ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第十七條ノ二 訴願人又ハ其ノ代理人捕獲審檢所所在地ニ住所ヲ有セサルトキハ書類ノ送達ヲ受クル爲其ノ所在地ニ假住所ヲ定メ捕獲審檢所ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲サルトキハ書類ノ送達ハ郵便ニ付シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ本令ニ定メタル期間ハ郵便ニ付シタル日ヨリ起算ス

第十八條 訴願期間内ニ訴願書ヲ差出シタルモノアルトキハ日時ヲ指定シテ口頭審問ヲ開キ檢察官及訴願人ヲシテ陳述ヲ爲サシム但訴願人許可ヲ得シテ闕席シタルトキハ闕席ノ儘審問ヲ開クコトヲ得

口頭審問ヲ了セタルトキハ檢定書ヲ作リ直ニ又ハ日
時ヲ指定シテ之ヲ宣告スヘシ但訴願人ノ出席ヲ必要
トセス

第十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ場合ニ於テ捕獲審檢所ハ必要アリト認ムル
トキハ更ニ口頭審問ヲ開クコトヲ得

第二十三條ノ二 捕獲審檢所ハ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ
經過セタル抗議ハ之ヲ却下スヘシ

方式ニ違ヒタル場合ニシテ年月日ハ宛名其ノ他重要
ナラサル事項ニ付テハ捕獲審檢所ハ補正ヲ命スルコ
トヲ得

第二十四條 捕獲審檢所ハ前條ニ依リテ却下スヘキ場
合ヲ除リノ外檢察官ノ抗議書ハ其ノ原本ヲ訴願人ニ
送達シ訴願人ノ抗議書ハ之ヲ檢察官ニ示シ十日ノ期
間内ニ答辨書ヲ提出サシム

前項ノ訴願人ノ答辨書ニハ帝國ノ辯護士ノ記名ヲ要
ス

第四十四條ノ二 捕獲審檢所必要アリト認ムルトキハ
第十六條第二十二條及第二十四條ノ期間ヲ延長スル
コトヲ得

第二十六條中「檢定ヲ爲ス」ヲ「檢定ヲ爲シ檢定書ノ附
本ヲ原檢定ヲ爲シタル捕獲審檢所ノ檢察官及訴願人
ニ送付スヘシ」ニ改ム

第二十六條ノ二 捕獲審檢所及高等獲捕審檢所ノ檢定
確定シタルトキハ其ノ要旨ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十六條ノ三 捕獲審檢所及高等獲捕審檢所ニ於テ
ハ日本語ヲ用フ

日本語ニ通セサル者ヲ取調フルトキハ通事ヲ用フル
コトヲ得

第二十九條 捕獲審檢所ハ拿捕セタル船舶及貨物ノ保
管ヲ檢定執行ニ至ル迄ノ間海軍軍衛ニ委託スヘシ

海軍軍衛ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ前項ノ船舶及
貨物ヲ保管スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第五十六號 (明治三十七年三月)

明治三十七年勅令第二十七號中「佐世保」ノ下ニ「及横
須賀」ノ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第五十七號 (明治三十七年三月)

陸軍懲治條例中改正

第三條第二項中「下士」ヲ「前項ノ職員」ニ改ム

勅令第六十四號 (明治三十七年三月)

戰事又ハ事變ノ際ニ於ケル聯隊區徵兵醫官、
同徵兵副醫官ニ關スル件

第一條 戰時又ハ事變ノ際ニ徵兵事務條例第十四條ニ
依リ聯隊區徵兵醫官、同徵兵副醫官ヲ充用シ難キ場
合ニ於テハ聯隊區徵兵醫官ハ陸軍軍醫正又ハ陸軍軍
醫ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵副醫官ノ職務ハ醫術開
業免狀ヲ有スル者ヲシテ之ヲ執ラシムルコトヲ得

第二條 戰事又ハ事變ノ際ニ師團長ハ聯隊區徵兵醫官
同徵兵副醫官ニ充ツル爲豫備役、後備役陸軍醫官ヲ
臨時召集スルコトヲ得

前項ニ依リ召集セタル者ハ師團長適宜之ニ召集解除
ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ陸軍召集條例第三章ノ規定ヲ
準用ス

第三條 本令ハ警備隊區徵兵醫官、同徵兵副醫官ニ關
シ之ヲ準用ス

勅令

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第六十五號 (明治三十七年三月)

陸軍地方幼年學校學例中改正

第五條中「副監督」ヲ「主計」ニ改ム

第十三條第一號中「及同相當官」ヲ「同相當官及陸軍准
士官下士」ニ改メ第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五
號ヲ第六號ニ改ム

五增加恩給權ヲ得タル陸軍准士官下士及任官後十五
年以上隊附職務ニ精勤シタル陸軍下士ノ兒子

勅令六十七號 (明治三十七年三月)
海軍高等武官進級條例中改正

第五條中「遠征ニ從事シタル者」ヲ「功績特ニ顯著ナル者」
ニ改ム

第十一 削除

第十四條第一項但書中「戰時若シハ」ヲ削ル

同條第三項中「各司令長官」ノ下ニ「要港部司令官」ヲ加
ヘ「各總監」ヲ「在職ノ各首席總監」ニ改ム

第十六條中但書ヲ削ル

第十七條ノ二 戰時ニ在リテハ海軍大臣ハ必要ニ應ジ

官ニシテ乘馬ヲ要スル者

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第七十號 (明治三十七年三月)

海軍兵學校條例中改正

第十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 品行又ハ家庭不貞ナルカ爲將來將校タルノ體面

ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ

告示ス

○勅令第七十一號 (明治三十七年三月)

海軍機關學校條例中改正

第十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 品行又ハ家庭不貞ナルカ爲將來機關官タル體面

ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ

告示ス

○勅令第七十五號 (明治三十七年三月)

巡查看守俸給令中改正

第五條ノ二 戰時又ハ事變ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ召集

第四條又ハ第十七條ノ三ニ依リ進級資格ヲ備ヘタル者ニ就キ候補名簿ヲ徵シ進級セシムヘキ者ヲ選拔シ順序ヲ定メ叙任ノ事ヲ奏上スヘシ

第十七條ノ三 戰時ニ在リテハ實役停年最下期限ヲ其ノ半ニ減スルコトヲ得

第十八條中「第十七條」ヲ「第十七條ノ三」ニ改ム

○勅令第六十八號 (明治三十七年三月)

海軍高等武官補充條例中改正

第二十一條第一項但書中「戰時若ハ」ヲ削リ

同條第三項中「各司令長官」ノ下ニ「要港部司令官」ヲ加

ヘ「各總監」ヲ「在職ノ各首席總監」ニ改ム

第二十二條ノ二 戰時ニ在リテハ海軍大臣ハ必要ニ應

ジ任用資格ヲ備ヘタル者ニ就キ候補名簿ヲ徵シ任用

スヘキ者ヲ選拔シ順序ヲ定メ任用ノ事ヲ奏上スヘシ

「第二十二條ノ二」ヲ「第二十二條ノ三」ニ改メ同條第一

項中「前三條」ヲ「前四條」ニ改ム

○勅令第六十九號 (明治三十七年三月)

陸軍乘馬同發條例中改正

第一條第二十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二十五 陸軍會計監督部副團經理部及臺灣經理部士

セラレタルカ爲休職ヲ命セラレタル巡查看守ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ受ケル俸給又ハ給料ノ額休職ヲ命セラレタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

○勅令第七十六號 (明治三十七年三月)

戰役中賄料増加ノ件

陸軍給與令ニ定ムル賄料定額ハ戰役中必要ニ應ジ金三

錢以內ヲ増加スルコトヲ得

前項増加賄料ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○勅令第七十七號 (明治三十七年三月)

外國在勤巡查ノ休職及休職給ニ關スル件

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召募セラレタル外國在勤

巡查ニハ其ノ間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

第一項ニ依リ休職ヲ命セラレタル外國在勤巡查ノ陸軍

又ハ海軍ニ於テ受ケル俸給又ハ給料ノ額休職ヲ命セラ

レタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ

相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

○勅令第七十九號 (明治三十七年三月)

海軍特設船舶乘員ノ航海加俸ニ關スル件

勅令

官ニシテ乘馬ヲ要スル者

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第七十號 (明治三十七年三月)

海軍兵學校條例中改正

第十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 品行又ハ家庭不貞ナルカ爲將來將校タルノ體面

ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ

告示ス

○勅令第七十一號 (明治三十七年三月)

海軍機關學校條例中改正

第十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 品行又ハ家庭不貞ナルカ爲將來機關官タル體面

ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ

告示ス

○勅令第七十五號 (明治三十七年三月)

巡查看守俸給令中改正

第五條ノ二 戰時又ハ事變ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ召集

海軍運送船、通信船、病院船及工作船ノ乘員ニハ別表航海加俸ヲ給ス

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表略ス)

○勅令第八十號 (明治三十七年三月)

海軍戰時給與規則中改正

第二條中三項ヲ削リ

第七條 軍人軍屬ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戰

地ニ於テ治療ヲ受ケルトキ並公務ニ原因シ傷疾ヲ受

ケ又ハ疾病ニ罹リ臨戰合圍地境ニ於テ治療ヲ受ケル

トキハ其ノ間俸給、加俸及増俸ノ全額ヲ給ス

第九條 戰地若ハ臨戰合圍地境ニ在リ又ハ派遣セラ

ル准士官以上、候補生及文官ニハ手當トシテ一回限

リ又ハ俸給ノ一箇月分ヲ給ス大本營勤務ノ准士官以

上、候補生及文官ニシテ大本營前進ノ際又ハ前進後

之ニ派遣セララル者亦同シ

戰地又ハ臨時合圍地境ニ派遣セララル、文官以外ノ軍

屬ニハ海軍大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ手

當トシテ一回限リ月給ノ者ニ在リテハ月給ノ一箇月

分、口給ノ者ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ給スルコトヲ得大本營勤務ノ文官以外ノ軍屬ニシテ大本營前進ノ際又ハ前進後之ニ派遣セラル、者亦同シ

戰地若ハ臨戰合圍地境又ハ前進後ノ大本營所在地ニ一時往復スル准士官以上、候補生及文官ニハ一回限リ第一項手當ノ半額ヲ給スルコトヲ得但本項ニ依リ手當ノ給與ヲ受ケタル者出張先ニ於テ更ニ派遣ノ命ヲ受クルトキハ尙半額ヲ差繼キ給ス

前各項ニ依リ手當ノ給與ヲ受ケヘキ者出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ免セラレタルトキハ其ノ手當金ハ半額トス

第十條ノ二「海軍糧食條例第一條ニ準テ食卓金ヲ給スルコトヲ得」ヲ「海軍給與令第六十五條ニ掲ケル艦船乗組ノ准士官以上ニ準シ食卓手當ヲ給スルコトヲ得」ニ改ム

第十一條中「海軍糧食條例第二條ノ規程」ヲ「海軍給與令第十四表」ニ「同條例第五條第六條及第七條」ヲ「同令八十六條、第八十七條及第八十八條」ニ「第八條」ヲ「第八十九條」ニ改ム
第十一條ノ二第二項中「海軍糧食條例第八條」ヲ「海軍

給與令第八十九條」ニ改ム
第十二條中「海軍糧食條例第一條」ヲ「海軍給與令第八十一條ニ掲ケル者」ニ改ム
第十三條第一項中「海軍被服條例第十條」ヲ「海軍給與令第七十九條」ニ、第二項中「海軍被服條例」ヲ「海軍給與令ニ、第三項中「海軍被服條例別表」ヲ「海軍給與令第十三表」ニ、第五項中「海軍被服條例第二條」ヲ「海軍給與令第五十六條」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十三號 (明治三十七年三月)

戰時又ハ事變ノ際ニ於ケル臨時召集ニ關スル件

戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ師團長ハ充員召集補充召集ノ外陸軍豫備役後備役將校同相當官准士官下士兵卒及補充兵ヲ臨時召集スルコトヲ得
前項ノ召集ニ關シテハ陸軍召集條例中補充召集ニ關スル規定ヲ準用ス但シ召集及其ノ解ニノ時期ハ陸軍大臣ノ規定ニ依リテ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第八十四號 (明治三十七年三月)

陸軍一年志願兵條例改正

第一條 徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵ト爲ル者ハ志願ノ際本籍ノ在ル師管内ノ軍隊ニ於テ服役セシム但シ軍事上ノ必要アルトキハ他ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役セシムルコトアルヘシ

第二條 一年志願兵ノ兵料ハ本人ノ冀望ト軍事上ノ必要トニ依リ之ヲ定ム但シ騎兵科ハ本人ノ冀望ニ依ルモノトス

第三條 一年志願兵出願者ニシテ左ノ各號中第一號ニ該當スルモノハ主計生、第二號ニ該當スルモノハ軍醫、第三號ニ該當スルモノハ藥劑生、第四號ニ該當スルモノハ獸醫生ヲシテ志願スルコトヲ得
一 專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ法律又ハ經濟ノ課程ヲ卒業セタル者
二 醫術開業免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受ケヘキ資格アル者
三 藥劑師免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受ケヘキ資格アル者
四 獸醫開業免狀ヲ有シ又ハ之ヲ受ケヘキ資格アル者

勅令

者

第四條 一年志願兵ハ管内ニ居住セシム入營後六箇月ヲ經過シタルトキハ聯隊長外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第五條 一年志願兵ニハ給料及旅費ヲ給ス

第六條 一年志願兵ニハ所屬隊ニ於テ糧食、被服、彈藥等ノ現品ヲ給シ兵器ヲ貸與ス

騎兵科ニハ前項ノ外馬匹ヲ貸與ス

第七條 一年志願兵ノ服役ニ關スル費用ハ之ヲ前納セシム其ノ金額納付ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

前項ノ金額ハ前條ニ依リ支給シ又ハ貸與スルモノノ費用等ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ剩餘アルトキハ之ヲ還付ス

第八條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六年四箇月豫備後備ニ、豫備役滿期後五箇年後備役ニ服セシム但シ第二十七條及第廿八條ニ依リ豫備役ニ編入セラレタル豫備役年期ハ現役期間ヲ通算シテ七年四箇月トス
第九條 一年志願兵ニシテ本籍所在師管ノ師團長ニ願出テ身體検査又ハ身體検査及學術試験ヲ受ヘシ但シ其検査及試験ハ寄留地所在師管ニ於テ之

ヲ受クルコトヲ得

前項出願ノ期日手續並検査及試験ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十條 本籍所在師管ノ師團長ハ合格ノ者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格ノ者ニハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十一條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認定證書ヲ返還セシム

一 傷疾又ハ疾病ニ依リ服役ニ堪ハ難キモノ
二 陸海軍ノ兵籍ニ編入スヘキ諸生徒候補生等ヲ命セラレタルトキ

三 本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キトキ

第十二條 一年志願兵ノ入營期日ハ毎年十二月一日トス但シ戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ於テハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十三條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者傷疾疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ所定ノ期日ニ入營シ難キトキハ其ノ入營ヲ延期スルコトヲ得

第十四條 入營ヲ延期セラレタル者十二月三十一日迄ニ入營シ難キトキハ翌年入營セシム

前項ニ依リ翌年入營セシムヘキ者仍其ノ年ニ於テ入營シ難キトキハ一年志願兵認定證書ヲ返還セシム

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ所定ノ期日ニ入營セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第十六條 一年志願兵ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ス

第十七條 一年志願兵ハ入營後四箇月一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ之ニ一等卒ヲ命シ二箇月以上通常教育ノ外特別ノ教育ヲ爲シ之ニ上等兵ヲ命シ其ノ材幹ト學術修得ノ成績トニ依リ下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム其ノ成績優秀ナルトキハ伍長ノ階級ニ進ムルコトヲ得

一等卒上等兵ヲ命シ又ハ伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テス

第十八條 第三條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル者ハ步兵隊ニ於テ、同條第四號ニ該當スル者ハ騎兵隊、砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ六箇月間前條ニ依リ教育ヲナシタル後上等兵ヲ命シ之ヲ主計生、軍醫

生、藥劑生又ハ獸醫生トナシ各專門ニ關スル下士及士官ノ勤務ヲ練習セシム

主計生ハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ハ師團軍醫部長、獸醫生ハ師團獸醫部長師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス

第一項ノ期間ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ四箇月ニ短縮スルコトヲ得

第十九條 專門勤務ニ關スル教育ハ主計生ニ在リテハ隊附高級主計、軍醫生コアリテハ隊附高級醫官、藥劑生ニ在リテハ術成病院長、獸醫生ニ在リテハ隊附高級獸醫官各其ノ責ニ任シ師團經理部長、師團軍醫部長、師團獸醫部長各其ノ教育ヲ監督ス

第二十條 專門勤務ヲ練習スル者コシテ其ノ成績優秀ナルトキハ其ノ教育ヲ監督スル該官ニ於テ主計生ハ三等計手ノ階級ニ、軍醫生藥劑生ハ三等看護長ノ階級ニ、獸醫生ハ三等蹄鐵工長ノ階級ニ進ムルコトヲ得但シ三等蹄鐵工長ノ階級ヲ進ムルハ師團獸醫部長ノ意見ニ依リ聯隊長ニ於テスルモノトス

第二十一條 一年志願兵ハ戰時又ハ事變ニ際シ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ

勅令

ハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ之ヲ官費トス

第二十二條 一年志願兵ハ現役滿期前終末試験ヲ施行ス其ノ方法ハ師團長之ヲ定ム

第二十三條 終末試験ヲ終リタルトキハ試験ノ成績ト平素ノ勤務トヲ參酌シ及第者ニハ豫備役編入ノ際終末試験及第証ヲ付與シ各兵科ノ者ハ軍曹ニ、主計生ハ二等計手ニ任シ軍醫生及藥劑生ハ二等ノ階級ニ獸醫生ハ二等蹄鐵工長ノ階級ニ進ム

終末試験及第証書ヲ付與セサル者コシテ下士ノ技能アル者ハ豫備役編入ノ際各兵科ノ者ハ伍長ニ、主計生ハ三等計手ニ、軍醫生及藥劑生ハ三等看護長ニ、獸醫生ハ三等蹄鐵工長ニ任シ主計生、軍醫生藥劑生、獸醫生ニシテ下士ノ技能ナキ者ハ之ヲ免ス

前二項ニ依リ及第証書ヲ付與シ、下士ニ任シ下士ノ階級ニ進メ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スルハ師團長ノ命ニ依リ主計生ニ在リテハ師團經理部長、軍醫生及藥劑生ニ在リテハ師團軍醫部長其ノ他ニ在リテハ聯隊長之ヲ爲スモノトス但シ獸醫生免スルハ師團獸醫部長ニ於テスルモノトス

第二十四條 一年志願兵ニシテ傷疾疾病等ニ因リ終末試験ヲ受ケサル者ハ現役滿期後一箇年以内ニ於テ終末試験ヲ受ケルコトヲ得

前項ニ依リ終末試験ヲ受ケサル者ハ前條ノ例ニ依ル
第二十五條 前條ニ依リ終末試験ヲ受ケサル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長同相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第二十六條 一年志願兵ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ第十七條及第十八條ノ例ニ依ラスニ等卒トナシ一般ノ兵卒ト同一ノ教育ヲ爲シ其ノ必要ニ應ジ現役滿期ノ後毎半六十日間勤務演習ノ爲召集ス之ニ要スル費用ハ自辨トス

一怠慢ニシテ勤務演習ノ見込ナキ者
二軍紀ヲ紊リ、廢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

第二十七條 一年志願兵中第十一條第三號ニ該當スル者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ其ノ現役ヲ免シ豫備役ニ編入セシム
第二十八條 一年志願兵中傷疾又ハ疾病ニ因リ服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ師團長ハ聯隊長ヲシテ現役ニ

堪サル者ハ豫備役ニ編入シ常備後備ノ役ニ堪サル者ハ其ノ役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘサル者ハ兵役ヲ免セシム

第二十九條 前二條ニ依リ豫備役ニ編入スル者ハ第二十三條第二項及第三項ニ準シ伍長相當官ニ任シ又ハ主計生、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第三十條 本條例ニ規定スルモノノ外一年志願兵ト爲リタル者ノ士官又ハ下士ノ任官ニ關シテハ陸軍補充條例、豫備後備ノ服役ニ關シテハ陸軍服役條例ノ規定ニ依ル
第三十一條 本條例中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長ニ該當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際服役中ノ者翌年回トナリタル者及明治三十七年出願ニ係ル一年志願兵ノ服役スヘキ兵科及衛戍地ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
明治三十七年一年志願兵ヲ出願シタル者ノ身體検査及學術試驗並認定証書ノ付與ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ官要服役ヲ許可シタル者ハ其ノ服役ノ費用ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際既ニ現役ヲ終リ又ハ免セラレタル者ノ服役ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル
臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ當分臺灣ニ於テ身體検査ヲ受ケ臺灣守備步兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本條例中師團長トアルハ臺灣守備混成旅團長ニ該當ス但シ第九條ノ願書ハ本籍在所師管ノ師團長ニ差出スヘキモノトス
○勅令第八十五號 (明治三十七年三月)

非常特別稅法施行規則

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自用ニ供スルモノノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス
第二條 毛織物又ハ石油ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轉稅務署ニ申告スヘシ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ毛織物又ハ石油製造場ノ圖面若ハ製造用ノ器具器械ノ目錄ヲ提出ス

勅令

ヘキコトヲ命シタルトキハ毛織物又ハ石油製造者ハ之ヲ提出スヘシ

第四條 毛織物又ハ石油製造者、製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條 毛織物又ハ石油製造者ニレテ期間ヲ定メテ製造ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第二條若ハ第五條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 毛織物又ハ石油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
毛織物又ハ石油製造業ヲ讓渡サルトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 毛織物又ハ石油製造者其ノ製造ヲ廢止セシムトスルトキハ其旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル毛織物又ハ石油ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港

ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
 所轄稅務署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ物品ニ
 封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送シ若ハ消費稅ニ相當スル擔
 保物ヲ提供ヒシムルコトアルヘシ
 消費稅ノ免除ヲ得タル毛織物又ハ石油ヲ外國ニ輸出
 シテリトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ製造
 場所轄稅務署ニ提出スヘシ
 製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物又ハ石油ヲ引
 取リタリ後三箇月以内ニ前項ニ依リ輸出免狀又ハ之
 ニ代ルヘキ書類ヲ提出セサルトキハ外國ニ輸出セラ
 レザリシモノト看做シ引取者ヨリ直ニ消費稅ヲ徵收
 ス

第十條 製造者ニシテ其ノ自用ニ供スル毛織物又ハ石
 油ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスルモノハ製造場外ニ
 移出セムトスルトキ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ毛織物又ハ石油消費稅ノ
 徵收ヲ猶豫ス
 一消費稅額以上ノ價額アル擔保物ヲ提供シタルトキ
 二他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スルカ爲製造場ヨリ
 毛織物又ハ石油ヲ移出スルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ猶豫期間ハ三箇月以内ト
 ス

第一項第二號ノ場合ニ於テ藏置場ヨリ毛織物又ハ石
 油ヲ引取ルトキハ製造場ヨリ之ヲ引取ルモノト看做
 ス

第九條第一項及第二項ノ規定ハ本條第一項第二號ノ
 場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 製造場ヨリ毛織物又ハ石油ヲ引取ラムトス
 ル者ハ其旨製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ毛織物ニ
 付テハ其ノ價格ヲ併セ申告スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ自ラ消費
 稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ
 爲スコトヲ得

第十四條 本令ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢
 及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價証券ニ限ル
 擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ
 其ノ供託受領証ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條 擔保物トシテ提供シタル有價証券ノ價格減
 少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ヲ提

供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタルトキハ稅務
 署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付
 濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキ
 ハ所轄稅務署ハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アル
 トキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ有價証券
 ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金ア
 ルトキハ之ヲ還付ス

第十八條 毛織物又ハ石油製造者ハ少クトモ左ノ事項
 ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 一原料ノ種類、數量、他ヨリ引取ラタル者ニ在リテハ
 引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、又ハ名稱
 二使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
 三製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日
 四他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ
 引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 毛織物又ハ石油販賣者ハ少クトモ左ノ事項
 ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 一引取ラタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡
 人ノ住所、氏名又ハ名稱
 二販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受
 人ノ住所、氏名又ハ名稱
 三小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏
 名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承
 認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ藏置場ニ出張シ
 タル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキ
 ハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看
 做ス

第二十一條 收稅官吏ハ毛織物又ハ石油ノ製造者又ハ
 販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏
 洩スルコトヲ得ス

第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保
 稅倉庫ヨリ引取タル、毛織物又ハ石油ニ關シテハ稅
 關之ヲ行フ

勅 令

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法第二十四條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第二條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

○勅令第八十六號 (明治三十七年三月)

醫藥用工業用酒精戻稅法施行規則中改正

第一條ヲ第一條ノ二トシ其ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條 酒精ヲ左ノ藥品製造ニ使シタルトキハ醫藥用

ニ供シタルモノトシ醫藥用工業用酒精戻稅法ニ依リ

金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

苦味丁幾

芳香丁幾

酸性芳香丁幾

橙皮丁幾

獨答利斯丁幾

規那丁幾

龍膽丁幾

沃度丁幾

吐根丁幾

阿片丁幾

大黃丁幾

荑若丁幾

蓄木龜丁幾

安息香丁幾

林檎鐵丁幾

顯草丁幾

ストロファンツス丁幾

實若越幾斯

綿馬越幾斯

大黃越幾斯

番木龜越幾斯

カスカラ、サシラマ流動越幾斯

コンヂニヲンゴ流動越幾斯

ヒドラスナス流動越幾斯

依的兒

酒精ヲ左ノ物品製造ニ使シタルトキハ工業用ニ供シ

タルモノトシ醫藥用工業用酒精戻稅法ニ依リ金額下

付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

火藥

尼斯

石鹼

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第八十七號 (明治三十七年三月)

明治三十四年法律第十號施行規則中改正

第三條ノ二 外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精

ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條

ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ登簿噸數二百

噸以上ノ汽船ニ積載スヘシ

前項ノ汽船ニシテ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以

外ノ内國沿岸ニ寄港シタルトキハ金額ノ下付ヲ請求

スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ア

ラザルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條中「輸出先」ノ下ニ「並積載スヘキ船舶名及其ノ

内國寄港地」ヲ加フ

第七條 韓國ニ陸揚シタル酒精、酒類又ハ其ノ他ノ酒

精ヲ含有スル飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一

條ニ依リ金額下付ヲ請求スル場合ニ於テ同法第二條

第三號ノ添附書類ハ領事ノ交付シタルモノ又ハ領事

ノ證明シタルモノナルコトヲ要ス

附則

勅令

第二條ニ左ノ二項ヲ加フ

當該官吏ハ前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用ス

ル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品、製品、

殘渣、器具、器械、及帳簿書類ヲ検査シ其ノ他監督上

必要ト認ムル方法ヲ施スコトヲ得

當業者前項ノ検査又ハ處分ヲ拒ムトキハ當該官吏ハ

既ニ與ヘタル承認ヲ取消スルコトヲ得

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

酒精ヲ外國ニ輸出スル香水ノ製造用ニ供シ金額下付

ヲ請求スル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又

ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添付スヘシ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第八十八號 (明治三十七年三月)

醬油稅施行規則中改正

第一條 第一項中「醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ヲ除ク外」ヲ削ル

第二條 削除

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第八十九號 (明治三十七年三月)

家用醬油稅法施行規則中改正

第四條中「第二號以下」ヲ「第一項各號ノ一」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第九十號 (明治三十七年三月)

非常特別稅法ニ依リ輸入稅ヲ增徴スヘキ物品ノ從量稅目ニ關スル件

非常特別稅法ニ依リ輸入稅ヲ增徴スヘキ物品ニ付關稅定率法第三條ニ依リ從量目左ノ通改ム

乾麵包

甲船用ノモノ

每斤

壹錢四厘

二十八

乙菓子製ノモノ 每斤 壹錢九厘

乳油 每斤 參錢七厘

乾酪 每斤 貳錢貳厘

咖啡(種子) 每斤 壹錢參厘

生卵 每百斤 七拾八錢五厘

麥粉 每百斤 貳拾四錢七厘

ハム及ベーコン 每斤 貳錢四厘

鮮肉(羊肉) 每百斤 壹圓拾四錢六厘

乳膏 一ポント罐十二箇 拾壹錢五厘

食鹽 他ノ重量ノ罐ハ此ノ比例ニ依ル

甲粗製ノモノ 每百斤 參錢八厘

乙精製ノモノ 每百斤 五拾四錢四厘

鹹魚 每百斤 貳拾參錢八厘

鹹肉(牛肉若ハ豚肉ノ稱) 每百斤 壹圓〇四錢貳厘

石花菜(入ニ爲タルモノ) 每百斤 貳拾六錢八厘

人造乳種 每斤 貳錢

石油 每ガロン 參錢八厘

砂糖(和蘭標本色相) 每百斤 壹圓貳拾五錢六厘

糖蜜(第十五號未滿) 每百斤 貳拾四錢四厘

支那絹緞 每方ヤール 拾六錢九厘

支那絹緞 每方ヤール 參錢五厘

支那絹緞子 每方ヤール 貳拾貳錢貳厘

支那絹緞子 每方ヤール 拾四錢五厘

絹綿緞子 每方ヤール 九錢

附則

本令ハ發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

○勅令第九十二號 (明治三十七年三月)

間接國稅犯則者處分法施行規則中改正

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

十毛織物消費稅

石油消費稅

○勅令第九十四號 (明治三十七年四月)

下士兵卒家族救助令

第一條 戰役ニ際シ召集セラレタル豫備役後備役補充兵役下士兵卒ノ家族ハ其ノ召集中本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ救助ス

第二條 本令ニ於テ家族ト稱スルハ召集ノ當初ヨリ引續キ應召者ト同一ノ家ニ在ル祖父父母妻子兄弟姉妹ヲ謂フ但シ召集中生出タル嫡出子ハ召集ノ當初

勅令

ヨリ其家ニ在ルモノト看做ス

第三條 救助ヲ受クヘキ者ハ下士兵卒應召ノ爲生活スルコト能ハサル者ニ限ル

第四條 救助ノ程度及方法ハ內務大臣之ヲ定ム

第五條 下士兵卒逃亡シ又ハ三箇月以上ノ禁錮ニ處正セラレタルトキハ其ノ逃亡又ハ刑期中ノ日數ニ等シキ

期間救助ヲ停止ス

前項ノ停止ハ公ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ始ム

第六條 下士兵卒死亡若ハ生死不分明トナリタルトキ又ハ傷痕若ハ疾病ニ依リ召集ヲ解除セラレタルトキ

ト雖モ本令ノ救助ハ仍三箇月之ヲ繼續ス

第七條 本令ノ規定ハ戰役ニ際シ現役ヲ延期セラレタル下士兵卒ノ家族ニ之ヲ準用ス

附則

本令施行ノ期日ハ內務大臣之ヲ定ム

○勅令第一百號 (明治三十七年四月)

陸軍戰時給與規則中改正

第六條第三項ヲ左ノ如ク改ム

出戰又ハ戰備ノ姿勢ヲ完成シタル部隊ニ屬スル者要塞ノ緊急配備ニ就キタル者及對敵ノ目的ヲ以テ派遣

二十九

セラレタル者ハ其ノ完成ノ日、配備ニ就キタル日又ハ派遣ノ日ヨリ戰地ニ出發ノ前日、戰地トナリタル日ノ前日、配備ヲ解キタル日、歸著ノ日又ハ給與停止ノ前日迄第一項ノ區分ニ依リ依給ハ五分ノ一、給料ハ四分ノ一ヲ増給ス

第七條中「増給ヲ受ケル者」ノ下ニ「並出戰ノ姿勢ヲ完成シテ衛戍地又ハ編成地ヲ出發スル部隊ニ屬スル者」及該部隊出發之ニ屬セシメテラレタル者」ヲ加フ

第七條ノ二ノ左ノ一項ヲ加フ

大本營前進セル場合ニ於テ戰役ニ關スル任務ヲ帶ヒ其所在地ニ一時ニ往復スル准士官以上營外居住下士及軍屬コハ前項ニ準シ手當ヲ給スルコトヲ得但シ前項ニ準シ手當ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

省 令

○陸軍省令第五號 (明治三十七年二月)

陸軍將校現役同相當官及准士官ニシテ現役年限年齢ニ滿ツル者ハ當分現役ヲ繼續セシム

陸軍豫備役後備役將校同相當官准士官及現役豫備役後備役下士兵卒(屯田兵)下士兵卒及六週間現役兵ヲ除ク)補充兵ニシテ服役期限滿ツル者ハ當分其服役ヲ延期ス

○遞信省令第六號 (明治三十七年二月)

軍事郵便物規則

第一條 軍事郵便物ニ關シ本則ニ定メタルモノノ外ハ普通郵便ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 軍事郵便物ハ差出人ニ於テ其表面ニ軍事郵便ノ四字ヲ記載シ尙ホ公用ニ屬スル者ハ公用ノ二字ヲ朱書スヘシ

第三條 戰地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、軍艦、水雷艇、軍術、軍人、軍屬並ニ該地ニ在ル者ニシテ當該軍術ノ許可ヲ得タル者ニ宛テ發スル軍事郵便物ハ左ノ種類ニ限ル

一、通常郵便物

第一種 書狀

省 令

第二種 郵便葉書

第三種 毎月一回以上刊行スル定期刊物

第四種 書籍、印刷物、寫眞

二、小包郵便物

第四條 戰地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、軍艦、水雷艇、軍術、軍人、軍屬並ニ該地ニ在ル者ニシテ當該軍術ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル軍事郵便物ハ左ノ種類ニ限ル

一、通常郵便物

第一種 書狀
一、通ノ重量公用ハ四匁ヲ超過セサルモノ但シ從軍記者等ノ軍事通信ニ關スル書狀ハ一匁ノ重量ヲ十匁迄トナスコトヲ得

第二種 軍事郵便葉書
明治三十六年遞信省令第六十一號私製葉書製式規則ニヨルモノ

二、小包郵便物 (公用ニ限ル)

第五條 第三條及第四條ニ定ムル軍事郵便物ノ種類ハ略宜ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

第六條 公用軍事郵便物ハ書留、別配達、配達証明、留置及約束郵便トナスノ前特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第七條 私用軍事郵便物ニシテ第三條ニ依ルモノハ書

留、留置及約束郵便又第四條ニ依ルモノハ留置トナ
スノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス但シ野戰郵便局又
ハ艦船郵便所ニ留メ置シヘキ郵便物ニ對シテハ留置
通知ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 軍事郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物ノ差立前ニ
限リ名宛變更又ハ取戻ヲ其引受局所ニ請求スルコト
ヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコ
トアルヘシ

第九條 軍事郵便物ノ別配達並ニ軍事小包郵便ノ轉送
及還附ニ關シテハ別ニ料金を徴收セス

第十條 第三條ニ依ル軍事郵便物ハ普通郵便局ノ取扱
中ニ亡失又ハ毀損シタル場合ニ限リ普通郵便ニ關ス
ル規定ニ依リ其損害ヲ賠償ス

第四條ニ依ル軍事郵便物ニ對シテハ總テ其ノ損害ヲ
賠償セス

○遞信省令第七號 (明治三十七年二月)

軍事郵便爲替貯金規則

第一章 通則

第一條 本則ニ於テ軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ト
ト稱スルハ戰時若ハ事變ニ際シ野戰郵便局若ハ艦船

ノ請求ハ此限用ニ在ラス

第八條 軍事郵便爲替ノ振出ヲ請求セントスル者ハ振
出請求書ニ現金ヲ添ヘ當該局所ニ差出シ其ノ受領証
書ヲ領置スヘシ但シ爲替金拂渡局所ノ指定ハ之ヲ省
署スルコトヲ得

前項但書ニ依リ拂渡局所ノ指定ヲ省署シタルモノニ
對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ
指定ス

第九條 軍事郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ受ケン
トスルトキハ爲替金拂戻請求書ニ爲替証書又ハ爲替
金受領証書ヲ添ヘ普通郵便局所ヲ經由シ之ヲ郵便爲
替貯金管理所又ハ同支所ニ差出スヘシ但シ請求書經
由局以外ノ郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ受ケント
スルトキハ其ノ局所名ヲ請求書ノ余白ニ附記スヘシ

第三章 軍事郵便貯金

第十條 軍事郵便貯金ノ預ケ人ニ對シテハ貯金登記簿
通知書ヲ發行セス

第十一條 軍事郵便貯金ノ預ケ人其ノ所持ノ通帳余白
ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリ
タルトキ若ハ之ヲ亡失シタルトキハ野戰郵便局又ハ

省 令

郵便所ニ於テ引受ケ取扱ヒタル通常郵便爲替又ハ預
入ヲ取扱ヒタル通常貯金ヲ云フ

第二條 軍事郵便爲替ノ取扱ヲ爲ス野戰郵便局又ハ艦
船郵便所ト雖モ時宜ニ依リ軍人軍屬以外ノ者ヨリ軍
事郵便爲替ノ取扱ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第三條 軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ニ關シ本則ニ
定メタルモノノ外ハ郵便爲替規則又ハ郵便貯金條例
施行細則ヲ準用ス

第二章 軍事郵便爲替

第四條 軍事郵便爲替ハ當該局所ニ於テ差出人ヨリ現
金ヲ受領シ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ爲
替証書ヲ發行シ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第五條 軍事郵便爲替ハ証書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セ
ス

第六條 野戰郵便局又ハ艦船郵便所ニ於ケル軍事郵便
爲替ノ取扱ニ關シテハ爲替料及其ノ他ノ料金を徴收
セス

第七條 軍事郵便爲替ノ差出人ハ爲替金拂渡猶豫、拂
渡濟通知及其ノ他ノ特殊取扱ヲ請求スル事ヲ得ス但
シ振出請求書誤記ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ訂正通知

艦船郵便所ハ其ノ事實ヲ證明シ別ニ通帳ノ交附ヲ受
ケ其ノ通帳ヲ以テ引續キ軍事郵便貯金ノ預入ヲ爲ス
コトヲ得

第十二條 前條ノ繼續通帳ニ對シテハ普通郵便局所ニ
於テ貯金ノ預入又ハ拂戻ヲ取扱ハス

第十三條 繼續通帳ノ交附ヲ受ケ軍事郵便貯金ノ預入
ヲ爲シタル者普通郵便局所在地ニ至リタルトキハ原
通帳及繼續通帳ヲ可成速ニ普通郵便局所ニ差出シ再
度通帳ノ交付ヲ請求スヘシ

第十四條 軍事郵便貯金ノ預ケ人貯金ノ拂戻、公債証
書ノ購入、再度通帳ノ交附、通帳利子記入、通帳名前
書換及異動届出等ヲ要スルトキハ普通郵便局所ヲ經
由シ之ヲ請求又ハ届出ヲ爲スヘシ

○陸軍省令第六號 (明治三十七年二月)

陸軍兵籍規則

第一條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種兵籍トス
將校同相當官及准士官ノ兵籍ハ第一種兵籍トシ士官
候補生、主計候補生、見習藥劑官、見習戰醫官、下士兵
卒(雜卒及職工ヲ包命ス以下同シ)諸生徒常備兵籍ニ
編入スヘキ者及依託學生ノ兵籍ハ第二種兵籍トス

第二條 第一種兵籍及第二種兵籍ニ登記スヘキ事項外
其ノ様式ハ附表第一及第二ニ依ル

第三條 現役將校、同相當官、准士官、士官候補生、主計
候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官現役下士
兵卒諸生徒及依託學生ノ兵籍ハ所屬軍隊官術學校ノ
所管トシ休職停職豫備役後備役將官同相當官ノ兵籍
ハ本籍地所管ノ師團司令部、休職停職豫備役後備役
上長官士官准士官、豫備役後備役下士兵卒及補充兵
ノ兵籍ハ本籍地所管ノ聯隊區司令部警備隊司令部又
ハ警備隊區司令部ノ所管トス

豫備役後備役將校同相當官准士官及下士兵卒ニシテ
現役ノ職ニ就キタル場合ニ在テハ其ノ兵籍ハ當該軍
隊官術學校ノ所管トス

第四條 第一種兵籍初テ官ニ任セラレタルトキハ其ノ
所屬軍隊官術學校ニ於テ調製シ其ノ謄本ヲ陸軍省ニ
差出スヘシ

第五條 第二種兵籍ハ入隊又ハ入校ノトキ當該部隊ニ
於テ調製スヘシ但シ第一補充兵(輜重輸卒ヲ除ク)及
第二補充兵ニ在テハ初テ召集ニ應シタルトキ輜重輸
卒タル第一補充兵ニ在テハ初テ役ニ就キタルトキ聯

給上必要アルモノハ別冊トシテ保存スヘシ

附則 本令ハ明治三十七年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ戶籍簿及其ノ用紙ハ當分ニ之ヲ應用スルコトヲ得

○海軍省令第四號 (明治三十七年二月)
市町村長(東京、京都、大坂市ハ區長)又ハ之ニ準スヘキ
モノハ海軍志願兵及其家族ニシテ左ノ事項ニ當ルルハ
志願兵在籍鎮守府所在地ノ海軍經理部ニ報告ス可シ

- 一 戶籍ニ異動アリタルキ
 - 二 轉籍ヲ爲シタルキ
 - 三 家族所在不明トナリタルトキ
 - 四 所在不明ノ家族所在判明セシキ
- 海軍志願兵ノ家族轉居シタルトキハ其家族ハ直ニ志願兵在籍鎮守府所在地ノ海軍經理部ニ届出ベシ
本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍省令第七號 (明治三十七年二月)
徵兵事務條例施行細則中改正

第三條第二項中「及明治三十年勅令第二百五十八號第
二項」ヲ削ル
第九條第二項中「者ニハ」ノ下ニ「徵兵事務條例第二十

省 令

四

隊區司令部ニ於テ其ノ兵籍ヲ調製スルモノトス
第六條 兵籍調製ノ場合ニ於テ兵籍中戶籍ニ關スル事
項ハ戶籍謄本ニ依リ登記スヘシ

第七條 兵籍ハ第一種及第二種ニ分テ各編綴シテ兵籍
簿ト爲スヘシ

第八條 兵籍中戶籍ニ關スル事項ニ異動ヲ生シタルト
キハ本人ヨリ一箇月以内ニ兵籍所管廳ニ届出ヘシ
但シ服役條例ニ依リ届出ツヘキ事項ハ此ノ限ニ在ラ
ズ前項ノ届出コソテ本人ノ年齢婚姻ニ係ルトキハ戶
籍抄本ヲ添付スヘシ

第九條 兵籍所管廳ハ兵籍上異動ヲ生シタル毎ニ戶籍
ノ訂正補足ヲ爲シ第一種兵籍ニ在リテハ其ノ事項
(本人ノ年齢及婚姻ニ係ルトキハ戶籍抄本ヲ添付ス)

陸軍省ニ報告スヘシ
第十條 轉職轉役轉籍等ニ依リ兵籍ノ所管ヲ變更スル
トキハ舊所管廳ヨリ其ノ兵籍ヲ新所管廳ニ送附シ新
所管廳ニ於テ兵籍ノ訂正ヲ爲スヘシ

第十一條 死官、免役若ハ退役トナリタル者、後備役若
ハ補充兵役ヲ終リタル者又ハ死亡シタル者ノ兵籍ハ
之ヲ戶籍簿ヨリ除去スヘシ但シ恩給又ハ扶助料ノ支

八條ノ抽籤後」ヲ加フ

第十二條第二號中「蒸機、汽機ノ取扱ニ慣レタル者」ヲ
「機械若ハ汽機ノ取扱、火焚、鍛冶工業、機械工業、鑄造
工業、製鐵工業又ハ兵器ノ製造修理ノ業ニ慣レタル者」
ニ改メ第四號中「及鍛冶」ヲ削ル

第十八條中「徵兵參事員列席」ヲ削ル
第三十五條中「第六十五條」ノ下ニ「並徵兵事務條例補
則第十一條」ヲ、久留米聯隊區」ノ下ニ「沖繩警備隊區」
ヲ加フ

第四十一條 島司郡市長(東京市、京都市、大坂市ニ在
ラテハ區長)ハ現役兵及第一補充兵ノ戶籍謄本ヲ聯
隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官
又ハ警備隊司令官ハ現役兵ノ戶籍謄本ヲ各隊長又ハ
鎮守府兵事官ニ送付スヘシ其ノ戶籍ニ異動ヲ生シタ
ルトキ亦同シ

第五十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
現役兵ニシテ徵募年ノ十二月十五日以前ニ、補充兵
ニシテ其ノ教育召集前ニ志願兵ニ採用セラレタルト
キハ其ノ願志ニ應セシム但シ該志願ニ應セサル者ハ
現役兵ニ在リテハ條例第四十五條第二項ノ例ニ依リ

五

翌年之ヲ徵集シ補充兵ニ在リテハ補充兵役ヲ繼續セ
 第二機式裏面欄内第一項中「及明治廿八年勅令第二百一
 十六號第二條明治三十年勅令第二百五十八號第三項」
 ヲ削リ「若クハ延期ニ屬スル者ハ其年間トス」ヲ「ニ屬
 スル者ハ其ノ事故ノ繼續スル期間有効トス」ニ改ム
 第六機式裏面欄内第八項中「轉籍」ノ上ニ「現役兵入營
 前及補充兵補充兵証書付與後其ノ年ヲ加ヘ」島司郡市
 長及町村長「ヲ」町村長及島司郡市長（東京市、京都市、
 大阪市ニ在リテハ區長ヲモ）ニ改メ第九項中「寄留」ノ
 上ニ「現役兵入營前及補充兵補充兵証書付與後其ノ年
 ヲ加ヘ但書ヲ削ル」
 第七機式ノ一中近衛師團欄内「砲兵」ヲ「野戰砲兵」ニ改
 メ海軍欄内「鍛冶」ヲ削ル
 第七機式ノ五欄外第三項中「鍛冶」ヲ削ル
 附則
 本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 ○陸軍省令第八號（明治三十七年三月）
 明治三十三年陸軍省令第三十號中改正
 第二條中「第二項」依リ徵集免除ニ屬スル者及同第三

項」ヲ削ル
 第六條中「第三項」ヲ削ル
 第八條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ近衛兵ニ在リテハ近衛師團長ヨリ第六師團長ニ
 通知スヘシ
 第十條 削除
 第十一條中「各隊長」ノ下ニ「近衛入營兵受領員」ヲ加フ
 附則
 本令ハ明治三十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 ○陸軍省令第九號（明治三十七年三月）
 徵集猶豫願差出シノ件
 徵兵令第二十三條第一項ニ依リ徵集猶豫中ノ者ハ明治
 三十七年四月十日迄ニ徵集証書ニ學校長ノ在學証明書
 ハ添ヘ町村長ヲ經テ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官
 ニ差出スヘシ
 聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ前項ノ書類ヲ調査
 シ有効ト認ムル證書コハ其ノ表面ニ適宜ノ證明ヲナシ
 町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ返付スヘシ
 ○遞信省令第十八號（明治三十七年三月）
 軍用通信ノ件

在韓國帝國軍用遞信所ヨリ發スル左ノ電報ハ配達局
 ニ於テ受信人ヨリ其料金ヲ追徵ス
 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス
 一帝國政府ノ電報但シ陸軍部内ヨリ發スル官報ヲ除ク
 一陸軍官憲ヨリ韓國内帝國軍用電信線上通信ノ特許ヲ
 受ケタル電報
 ○陸軍省令第十一號（明治三十七年三月）
 明治三十三年陸軍省令第一號陸軍召集諸費支出規程
 中改正
 第一條 充員召集補充召集ニ係ル諸費ハ臨時費ニ屬ス
 定期演習召集教育召集及補飲召集ニ係ル諸費ハ經常
 費ニ屬シ但シ動員セル師團ニ係ルモノハ臨時費ニ屬
 ス
 臨時演習召集其ノ他臨時ノ召集ニ係ル諸費ノ所屬ハ
 臨時之ヲ定ム
 第四十三條中（臨時演習召集）ノ下ニ「其ノ他臨時ノ召
 集」ヲ加フ
 ○陸軍省令第十二號（明治三十七年三月）
 陸軍旅費規則中改正
 第十七條第三號中「下士」ノ下ニ「憲兵上等兵」ヲ加ヘ第
 省 令

四號中「下士」ノ下ニ「憲兵上等兵」ヲ「士官候補生」ノ下
 ニ「主計候補生」ヲ加ヘ「見習軍吏」ヲ「見習主計」ニ改ム
 第十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 下士以下ニシテ赴任前營内居住ノ者コハ前二項ヲ適
 用セス
 第二十一條第六號中「士官學校分遣」ヲ「主計候補生
 學校分遣」ニ改ム
 第三十條中「第十表」ノ下ニ「臺灣ニ於ル測量」ノ割註
 ヲ加フ
 第三十二條末項ヲ左ノ如ク改ム
 在官者ニアラスシテ奏任官ノ職務ヲ執ル者ハ士官ノ
 額算滿清國韓國内ノ旅行ニ在リテハ奏任官ノ額算滿清國
 韓國内ノ旅行ニ在リ 其ノ他ノ者ハ判任官ノ額
 タハ奏任官ノ額
 第三十四條 戰時又ハ事變ニ際シ聯隊區又ハ警備隊區
 徵兵副官ノ職務ヲ執ル地方醫師ニシテ旅行ヲ要ス
 ル場合ニ在リテハ一般内國旅費規則ノ規定ニ依リ奏
 任官ノ旅費額ヲ給ス
 第一備者中「士官候補生」ノ下ニ「主計候補生」ヲ加ヘ「
 見習軍吏」ヲ「見習主計」ニ改ム

第一、第二備考第一項ノ次ニ左ノ第一項ヲ加フ
 遊兵上等兵ハ下士ノ額ニ依ル
 第三、第四表備考中「士官候補生」ノ下ニ「主計候補生」ヲ加ヘ「見習軍吏」ヲ「見習主計」ニ改ム
 第五表中「一等軍曹」ヲ「軍曹」ニ「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ改メ備考中「士官候補生」ノ下ニ「主計候補生」ヲ加ヘ「見習官吏ハ曹長ノ額ニ依ル」ヲ「見習主計ハ曹長ノ額ニ依ル」ニ改ム
 第七表備考中「士官候補生」ノ下ニ「主計候補」ヲ加ヘ「見習軍吏」ヲ「見習主計」ニ改ム
 第九表備考中「演習」ヲ削ル
 第十一表備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 遊兵上等兵ハ下士ノ額ニ依ル（以下表式略ス）
 ○陸軍省令第十三號（明治三十七年三月）
 陸軍一年志願兵條例施行細則改正
 第一條 一年志願兵ノ被服ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘシ
 一 第一種帽、前立、第二種帽、絨衣袴、略衣袴、夏衣袴、日覆、外套、脚絆、軍隊手膠ハ新品ヲ給シ其ノ代價ヲ納付セシム

二 背囊、被服手入具、飯盒、水筒、寢具ハ貯藏品
 貸與シ其ノ補修費ヲ納付セシム
 三 第一號 品種ハ新品ヲ支給スルノ外必要ニ應ジ貯藏品ヲ貸與シ其ノ補修費ヲ納付セシム
 四 前各號ノ外下士卒給與品ニ限リ必要ニ應ジ其ノ代價ヲ徴シ特ニ支給スルコトヲ得
 第二條 糧食及馬糧ハ行軍又ハ演習中ト雖官給スルコトナシ
 第三條 一年志願兵ハ左ノ金額ヲ入營スル月ノ前月十五日迄ニ所屬隊ニ納付スヘシ但シ第三號ハ騎兵科ノ者ニ限ル
 一 被服費、彈藥費、兵器修理費 金四十五圓
 二 糧食費 金六十圓
 三 馬糧費、裝蹄費、馬糞費 金百五十六圓
 第四條 一年志願兵ヲ出願スル者ハ其ノ願書（附錄第一樣式）ニ戸籍謄本、履歷書（附錄第二樣式）ヲ添ヘ本籍地ノ市町村長、戶司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ一月三十一日迄ニ師團長ニ差出スヘシ
 前項ノ願書ニハ徵兵令第十三條ノ學校卒業者ニ在リテハ學校長ノ卒業證明書戸主ニ非ラサル者ハ戸主、

未成年者ニ在リテハ親權者ノ服役承認書（附錄第三樣式）ヲ添付スヘシ
 市町村長ハ志願者ノ身元資産及犯罪ノ有無等ヲ調査シ證明書（附錄第四樣式）ヲ製シ又他師管ニ全戸寄留ノ者アリテハ其ノ師管名及寄留ノ年月日ヲ付記シ願書ニ添付スヘシ
 第五條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其ノ年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代フルコトヲ得但シ卒業ノ上ハ直ニ學校長ノ卒業證明書ヲ添ヘ師團長ニ届出ツヘシ
 第六條 師團長ハ志願者中學術試驗ヲ要スル者ノ人員ヲ検査ヲ爲スヘキ師管ニ區分シ之ヲ二月二十日迄ニ陸軍將校生徒試驗常置委員長ニ通知シ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ノ人名及必要ノ事項ヲ當該師管ノ師團長ニ三月一日迄ニ通知スヘシ
 第七條 陸軍將校生徒試驗常置委員長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ試験問題ヲ師團長ニ送付スヘシ
 第八條 師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ地方長官ニ通知シ地方長官ハ志願者ヲ検査場ニ出頭セシムヘシ

第九條 師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體検査ヲ行ハシメ尚身體検査合格者中學術試驗ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試験委員ヲ命ジ其ノ試験ヲ行ハシメ學術試驗ヲ受クヘキ者ハ新ニ單身撮影シタル寫眞紙手札形ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ身體検査ノ際軍醫ニ差出スヘシ
 第十條 一年志願兵出願者ノ検査場及學術試驗期日ハ陸軍召集規則第二十一條及第二十二條ニ同シ
 第十一條 學術試驗ヲ要セサル者ハ検査場ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合於テハ三月一日迄ニ原検査場所ニ在師管ノ師團長ニ願出ヲ許可ヲ受クヘシ
 第十二條 師團長前條ノ願出ヲ許可シタル場合ニ於テ其ノ検査場他ノ師管内ナルトキハ三月廿日迄ニ當該師團長ニ通知スヘシ
 第十三條 師團長ハ検査ヲ終リタルトキハ五月十日迄ニ合格人員表（附錄第七樣式）ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ同日迄ニ受檢者本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ
 第十四條 陸軍大臣ハ前條ノ合格人員表ニ依リ一年志

省 令

九

願兵配當表ヲ作リ師團長ニ通達ス
師團長前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ一年志願兵認定
證書(附錄第五樣式)ヲ本人ニ付與スヘシ但シ第五條
ニ依リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證明書ニ代用スル
者ニ在リテハ卒業ノ届出ヲ爲シタル後之ヲ付與スヘ
モノトス

第十五條 他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ
本籍所在師管ノ師團長之ヲ付與シ其ノ人名書ニ體格
検査表、願書、其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ速ニ當該師
團長ニ送付スヘシ

第十六條 師團長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ更ニ
入營命令(附錄第六樣式)ヲ作リ本人ニ送付スヘシ

第十七條 師團長ト其ノ師管内ニ於テ服役スヘキ者ノ
隊籍ヲ定ムルニハ志願者ノ黨望及素質並軍事上ノ必
要ヲ斟酌シ師管内ノ各兵科毎ニ各隊成ル可ク平等ニ
配賦スヘシ但シ主計生ヲラムコトヲ黨望スル者ハ師
團司令部所在地ノ歩兵隊ニ配賦スルモノトス

第十八條 師團長ハ其ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役スヘ
キ者ノ人名書ニ其ノ體格検査表、願書其ノ他必要ノ
書類ヲ添ヘ入營前聯隊長ニ下付スヘシ但シ近衛師團

ニ於テ服役スヘキ者ニ關スル書類ハ第一師團長ニ送
付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 一年志願兵出願後入營迄ノ間ニ轉籍、轉住、
氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及添付書類ニ記載セ
ル事項ニ異動ヲ生ゼタルトキハ本人又ハ親族ヨリ認
定證書付與前ニ在リテハ本籍所在師管ノ師團長ニ認
定證書付與後ニ在リテハ服役スヘキ師團ノ師團長ニ
届出ツヘシ

第二十條 條例第十一條第一號ニ該當スルトキハ在職
軍醫ノ診斷證書(軍醫有ラサル地ニ在リテハ醫師ノ
病況書)同第二號ニ該當スルトキハ學校又ハ官廳等
ノ證明書第三號ニ該當スルトキハ近隣戸主二名ノ保
證書ヲ添付シ本籍地ノ市町村長、嶋司、郡長、聯隊區
司令部ヲ經テ服役スヘキ師團ノ師團長ニ届出ツヘシ
嶋司、郡市町村長ハ前項ノ病況書又ハ保證書ニ記載
セル事實ヲ審察シ市町村長ニ在リテハ狀況書嶋司、
郡長ニ在リテハ意見書ヲ作り届書ト共ニ聯隊區司令
官ニ送附シ聯隊區司令官ハ該狀況書及意見書ニ尙其
ノ意見ヲ添付シ師團長ニ進達スヘシ

第二十一條 條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テ

トスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村
長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍
隊所管ノ師團ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ與齊證印ヲ爲スヘキモノト
ス

第二十二條 師團長一年志願兵入營前認定證書ヲ返還

セシメタルトスルトキハ本籍地ノ聯隊區司令官ニ其旨
ヲ通知シ聯隊區司令官ハ本人ヘ其ノ返還ヲ命スヘシ

第二十三條 聯隊長條例第二十八條ニ依リ常備後備ノ
役ヲ免シ又ハ兵役ヲ免シタルトキハ之ヲ本籍地ノ聯

隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊長ハ一年志願兵中所定ノ期日ニ入營

セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ二十歳以上
ノ者ニ在リテハ尙本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘ
シ

第二十五條 師團長ハ一年志願兵人員表(附錄第八樣
式)及一年志願兵終末試験成績表(附錄第九樣式)

ヲ毎年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十六條 一年志願兵終末試験及成績書(附錄第十
樣式)ハ各部隊ニ於テ調製スルモノトス

省 令

第二十七條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタ
ルトキ又ハ翌年同ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本

籍地ノ市町村長ニ届出ツヘシ但シ十一月三十日迄ニ

滿二十歳ニ達セサル者ハ之ヲ要セス

第二十八條 一年志願兵ニシテ條例第十一條第三號ニ
該當スルトキハ聯隊長ニ届出ツヘシ此場合ニ在リテ

ハ第二十條ヲ準用ス

第二十九條 本則中職隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ

該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ
警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、嶋司又ハ郡長ト

アルハ北海道ニ在リテハ支廳長又ハ區長、沖繩縣ノ
區ニ在リテハ區長島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在
リテハ

嶋司又ハ郡長ニ準スヘキ者市長トアルハ東京、京都、
大阪ノ三市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制

ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該
當ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際入營延期又ハ翌年同ト爲リタル者及明治

三十七年志願ニ係ル一年志願兵ニシテ舊一年志願兵條例施行細則ノ規定ヲ適用スヘキモノハ従前ノ規定ニ依ル

明治三十七年志願ニ係ル一年志願兵中條例第三條第一號ニ該當スル者主計生タラムトスルトキハ證明書類ヲ添ヘ一箇月前迄ニ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ願出ツヘシ

前項ノ願ヲ許可セラレタル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ於テ服役セシム

條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役セル者ニ關シテハ第五條第九條第十一條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備混成旅團長ニ該當シ其ノ被服ハ従前ノ規定ニ依リ臺灣守備混成旅團長ニ送付シ檢査ハ臺灣守備混成旅團長適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ認定證書ハ檢査終了後臺灣守備混成旅團長ニ於テ適宜之ヲ付與シ第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備混成旅團長ニ差出モノトス

第一様式

第一號

一年志願兵服役願

某儀

徵兵令第十三條ニ依リ服役中ニ關スル費用全額ヲ自辨シ一年志願兵トシテ服役致度候間御認可相成度別紙所要書類相添此段奉願候也

本籍地府(縣)郡(市)町(村)番地華(士)旅(平民)

寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地

年月日 氏名印

年月生

第何師團長備氏名殿

追テ左ノ通希望致候也

一 受験場 何地

二 冀望兵料 第一何兵(主計生軍醫生藥劑生職醫生) 第二何兵(冀望者ハ其ノ旨ヲ記スヘシ)

受験場ハ本籍地師管内又ハ寄留地師管内ニ限ル但シ臺灣ニ於テ服役セムトスル者ハ臺灣守備混成旅團司令部所在地トス

第二様式

履歷書

一何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業

一何年月日何所ニ於テ何々研究

一何年月日何ニ從事ス

一一年志願兵出願ニ關スル件左ノ如ク

一未々出願セヨトナシ

一何年何師管ニ於テ何々ノ爲不採用

一何年一年志願兵認定證書ヲ受領セシモ何々ノ爲服役セス

爲服役セス

一何年月日何ニ依リ賞(罰)等

(右ノ外履歷ニ關スル事項ハ悉ク記載スヘシ)

右之通相違無之候也

年月日

氏名印

第三様式

一年志願兵服役承認書

氏名

年月日生

右者一年志願兵トシテ服役ノ備承認致候就テハ服役並一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ要スル費用ハ無相違上納可爲致候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地

寄留地 府(縣)郡(市)町(村)番地

省 令

戸主

氏名印

年月日

二十歳未満ノ志願者ニ在リテハ戸主及親權ヲ行フ者ノ連署ヲ要ス此場合ニハ氏名ノ上ニ「親權者」ト記載スヘシ

ト記載スヘシ

第四様式

身元證明書

氏名

一賞罰ニ關スル事項ハ履歷書ノ通

一戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等

一戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受シル給料何千何百圓等

一何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年月日

府縣市町村長氏名印

第五様式

一年志願兵認定證書

府(縣)族籍

府(縣)族籍

十三

氏名

年月日生

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス

但シ何兵第何聯「大」隊ニ於テ服役スヘシ

年月日 職銜 氏名 印

他師管ノ軍隊ニ於テ服役スル者ニ在リテハ但皆「但シ何師團ニ於テ服役スヘシ」ト記ス

第六様式

一年志願兵入營命令

府(縣)族籍

氏名

年月日生

何兵第何隊(大)隊ニ入隊スヘシ

年月日 職銜 氏名 印

○内務省令第二號(明治三十七年三月)

明治三十三年五月内務省令第二十六號第一項改正

懸賞又ハ賞籤類似其ノ他射伴ノ方法ヲ用非ノコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

十四

○内務省令第三號(明治三十七年四月)

下士兵卒家族救助令施行規則

第一條 下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケントスルトキハ一家經理ノ任ニ在ル者若ハ之ニ代ル者ヨリ住所地方長官ニ願出ツヘシ

前項願出アリシルトキハ地方長官ハ資産ノ程度勞役ノ能否扶養義務者其他救護ヲ爲ス者ノ有無並ニ各種ノ狀況ヲ調査シ其許否ヲ決定スヘシ

第二條 救助ハ生業扶助、現品給與、施療、現金給與等ノ方法ニ依ル

前項救助ハ適當ナル他ノ施設ニ委屬シ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 救助ノ額ハ戦死者ノ遺族ニ支給スヘキ扶助料ノ最低額ヲ超ユルコトヲ得ス其支給額ノ標準等ハ被救助者ノ狀況ニ依リ地方長官之ヲ定ム

第四條 救助ヲ受ケル者自營ノ途ヲ得若ハ他ノ扶助等ヲ受ケルニ至リタルトキハ其狀況ニ依リ救助ノ程度ヲ減少シ又ハ救助ヲ廢止ス

第五條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

○内務省令第四號 (明治三十七年四月)

下士兵卒家族救助令施行ノ件

施行ス

○陸軍省令第十五號 (明治三十七年四月)

馬匹徵發事務細則第廿九條改正

郡市町村吏員ニシテ徵發事務ニ關シ馬匹差出場所等ニ出張執務シタル者ノ旅費其他郡市町村ニ於テ使用セシ郵便電信料使了貸金等總テ徵發實施ニ關スル諸費ハ當該師團司令部ニ請求スヘシ

附則

本令ハ今回ノ戰役ニ關シ既ニ實施シタル徵發ニモ之ヲ適用ス

○大藏省令第十三號 (明治三十七年四月)

煙草賣捌規則

第一條 煙草元賣捌人ハ大藏大臣指定ス

煙草專賣法發布ノ日迄一箇年以上引續キ煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシ明治三十六年分ノ所得稅(本規則發布後ノ追加申告及自首ニ係ル分ヲ包含セス)ヲ納メタル者ハ其ノ申出ニ依リ本規則施行ノ

省 令

際ニ限リ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得但シ

同一地方ニ元賣捌人タラムトスル者多數コシテ著シク現狀ヲ變更スルノ虞アリト認メタルトキハ大藏大臣ハ煙草製造ヲ業トシタル者ニ限リ其ノ所得額ノ多キ者ヨリ順次之ヲ指定シ相當ノ數ニ至リ之ヲ止ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ煙草元賣捌人タラムトスル者ハ明治三十七年五月十日迄ニ第一號書式ニ依リ其ノ申出ヲ爲スヘシ

第二條 左ニ掲ケル者ハ煙草元賣捌人又煙草小賣人ニ指定セラル、コトヲ得ス

一 煙草耕作者、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者

二 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

三 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者

四 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

十五

五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルコト迄ノ者

六 公權剝奪又ハ停止中ノ者

七 履行期日ヲ過キ仍ホ製造煙草ノ買入代金ヲ完済セサル者

第三條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル者ハ指定ノ日ヨリ五箇年間其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

煙草元賣捌人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ大藏大臣ニ届出テ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

第四條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニシテ其營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢業ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但シ第三號ノ規定ハ煙草小賣人ニハ之ヲ適用セス

一本規則ニ定ムル義務ヲ怠リ當該官吏ノ注意ヲ受ケルモ尙ホ之ヲ履行セザルトキ

二第二條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ラザルトキ

三 煙草賣渡代金一箇年五千圓未満ナルトキ

第六條 煙草元賣捌人ノ買受ケル煙草ノ代金ハ定價ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第七條 煙草元賣捌人煙草ヲ買受ケムトスルトキハ第二號書式ニ依リ毎月五日迄ニ翌月分ノ煙草賣渡請求書ヲ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所又ハ煙草藏置場ニ差出スヘシ

第八條 煙草元賣捌人ハ煙草ノ買受代金ヲ納付シタル後ニ非サレハ現品ノ引渡ヲ受ケルコトヲ得ス

第九條 煙草元賣捌人カ買受ケタル煙草ハ煙草製造所又ハ煙草藏置場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スモノトス

煙草製造所又ハ煙草藏置場ノ所在地ヨリ煙草元賣捌人ノ所在地ニ至ル迄ノ間ノ煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ煙草製造所又ハ煙草藏置場ノ所在地及之ニ準スヘキ地ニ在ル煙草元賣捌人ニハ之ヲ支給セス

第十條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼スルコトヲ得ス又其ノ營業場ヲ同クスルコトヲ得ス

第十一條 煙草元賣捌人ノ營業場ハ一人一箇所ニ限ルモノトス但シ本規則發布ノ際煙草製造業者ニシテ二

箇所以上ノ煙草製造場ヲ有シ又ハ製造煙草ノ仲買業者ニシテ支店又ハ代理店ヲ有シタル者ハ其ノ場所ニ限リ營業場ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 煙草元賣捌人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ營業場ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十三條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼スルトキハ其ノ營業場ト他ノ營業場トノ間ニ相當ノ區劃ヲ設クヘシ

第十四條 煙草ノ定價ヲ引下ケタル場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ變更定價ノ適用期日後十五日以内ニ其ノ舊定價ニテ買受ケ變更定價ノ適用期日ニ至ル迄所有シタル煙草買受代金ト變更定價ニ基キ計算シタル金額トノ拂戻ヲ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ煙草ノ種類、名稱、包裝別數量ヲ證明スルニ足ル書類及拂戻金計算書ヲ其ノ煙草製造所ニ差出スヘシ

第十五條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包装ノ破損シタルモノアルトキハ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草製造所ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ其ノ事由ヲ

詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ煙草ハ別コ之ヲ保存シ當該官吏ノ檢査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草製造所ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲メニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニヨリテ生シタルトキハ煙草元賣捌人ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十六條 煙草小賣人第二十二條ニ依リ煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第二十四條ニ依リ煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條 煙草元賣捌人ハ第三號及ヒ第四號書式ノ帳簿ヲ調製シ翌月五日迄ニ第五號書式ノ煙草受拂月計表ヲ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第十八條 煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ現存スル煙草ハ大藏大臣ノ指定シタル煙草製造所ニ之買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由

○由リテ煙草ノ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルアルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲メニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル煙草コシテ煙草小賣人ノ費ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第十九條 煙草小賣人ハ大藏大臣之ヲ指定ス

煙草專賣法發布ノ日ヨリ於テ煙草ノ製造又ハ製造煙草ノ仲買ヲ業トシタル者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラルベシ者製造煙草ノ小賣ヲ業トシタル者及葉煙草ノ受買ヲ業トシタル者ハ本規則施行ノ際ニ限リ煙草小賣人ニ指定セラルベシト得

前項ノ規定ニ依リ煙草小賣人ヲシテトスル者ハ明治三十七年五月十日迄ニ第六號舊式ニ依リ所管專賣支局ニ其ノ申出ヲ爲スヘシ

第二十條 煙草小賣人ハ煙草元賣捌人以外ヨリ煙草ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十一條 煙草小賣人ハ營業場ノ見易キ場所ニ煙草定價表ヲ掲ケヘシ

第二十二條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其ノ販賣ヲ爲シタル煙

訓 令

○海軍省訓令第一號 (明治三十七年二月)

日露交戦中戰時禁制品トナスヘキモノ件

第一 左ニ掲ケル物品ハ敵地ヲ經由シ若ハ之ニ到達スヘキ場合又ハ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合ニ於テ之ヲ戰時禁制品トス

兵器、彈藥、爆發物並其ノ材料(鉛、硝石、硫黃等ヲモ包含ス)及製造機械、「セメント」、陸海軍軍人ノ制服及武裝具、甲鐵板、艦船ノ製造及修繕ノ材料並以上ノ物品ニ屬セスト雖單ニ戰爭ノ用ニ供スヘキ一切ノ物品

第二 左ニ掲ケル物品ハ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合又ハ敵地ニ到達スルモノコシテ其ノ到達地ノ如何ニ依リ敵ノ陸海軍用ニ供スルモノト認ムヘキ場合ニ限リ之ヲ戰時禁制品トス

糧食、飲用品、馬匹、馬具、馬糧、車輛、石炭、木材、通貨金銀塊並電信電話及鐵道建設ノ材料

第三 前二項ニ掲ケタル物品中其ノ分扱及性質ニ依リ特ニ當該船舶ノ自用ニ供スルコト明ナリト認ムヘキモノハ之ヲ戰時禁制品ト爲スノ限リニアラス

訓 令

草元賣捌人コ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ煙草小賣人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ煙草ハ別コ之ヲ保存シ當該官吏ノ檢査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草元賣捌人ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ費ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ辦償スヘシ

第二十三條 煙草小賣人ハ第七號舊式ノ帳簿ヲ調製シ

第八號舊式ノ煙草受拂月計表ヲ毎年十月五日及四月五日迄ニ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第二十四條 煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者

ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキ現存スル煙草ハ其ノ販賣ヲ爲シタル煙草元賣捌人ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ以テ煙草小賣人ノ費ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除スヘシ

第二十五條 本規則中大藏大臣ヨリ差出スヘキ書類ハ所管專賣支局ヲ經由スヘシ (別表第一)

○内務省訓令第二號 (明治三十七年二月)

露西亞帝國ニ對シテ戰ヲ宣スルニ至リタルハ帝國政府ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リトイヘトモ其臣民ニ對シテハ秋毫ノ敵意ヲ有スルコト非ス其ノ現ニ帝國ニ在ル者ハ引續在留スルコトヲ得ヘシ新ニ渡來スル者ハ敢テ之ヲ拒マズ其ノ帝國ヲ去ラムトスル者モ亦毫モ之ヲ否マズ其ノ身體生命名譽及財產ハ我法令ノ規定スル所ニ從ヒ之ヲ保護シ彼等ヲシテ平和適法ノ業務ニ従事シ進シテ帝國裁判所ノ救濟ヲ請フコトヲ得セシムヘシ然モ是帝國政府ノ彼等ニ對スル好意ニ出ル耳若夫レ取締上必要ナル行政處分又ハ軍事上ノ目的ニ出ツル陸海軍官憲ノ處分ヲ爲スニ就テハ帝國政府ハ何等ノ制限ヲ受クルコトナク身體生命名譽及財產ノ保障ト雖之カ爲ニ其幾分ヲ挾少セラルルコトヲ妨ケス其必要ヲ認ムルニ方リテハ或ハ退去ヲ命スルコトアルヘシ或ハ退去ヲ禁スルコトアルヘシ或ハ移轉旅行ヲ禁止若ハ制限スルコトアルヘシ例ヘハ彼等コシテ帝國政府ノ好意ニ背キ其ノ本國ノ爲ニ軍事上ノ利便ヲ計リ又ハ帝國ノ安寧秩序若ハ風俗ヲ紊シ其他荷モ帝國ノ利益ヲ侵害スヘキ行爲ヲ爲スモノアルコト於テハ法令ノ規定ニ依リテ處分セラルル外

直ニ之ヲ帝國外ニ退去セシムルコトヲ得ルハ論ヲ俟メ
ス貧窮ニシテ生計ヲ營ムコト能ハス公費ノ救助ヲ要ス
ル者ノ如キニ至リテモ亦其ノ在留ヲ禁止スルコトア
ルヘシ之ヲ要スルコト帝國ニ在留セル露西亞帝國國民ニ對
シテハ帝國ノ利益ト抵觸セサル限ニ於テ可成完全ノ保
護ヲ與ヘント欲スルナリ宜ク此意ヲ體シテ彼等處偶シ
併セテ帝國臣民ヲシテ誤解ナカラシム機注意スヘシ

○文部省訓令第三號 (明治三十七年二月)

今回露國ニ對シテ戰ヲ宣セラレタル趣旨ハ炳乎トシテ
宣戰ノ勅詔ニ明ナリ此ノ時ニ當リテ國民衆ヲ忠勇ノ精
神ヲ勵マシ滿腔ノ熱誠ヲ捧ケテ陸海軍ノ後援ヲナスハ
因ヨリ當然ノコトニ屬ス而シテ國民力戰ノ進行ニ懸念
ニ平素ノ業務ヲ顧ミルノ邊ナキニ至ルカ如キハ忠愛ノ
至情ニ出ツルトスルモ決シテ嘉ニスヘキコトアラス殊ニ
教育ニ從事スル者ハ此ノ間ニ處シテ能ク平素ノ沈着ナ
ル態度ヲ變スルコトナク熱誠意益々其ノ職務ニ盡サ
ンコトヲ努メサルヘカラス思フニ今回ノ事變ナル其ノ
關スル所極メテ大ニシテ其ノ結果ハ遠ク我國家ノ將來
ニ及フヘシ是ヲ以テ教育者ハ能ク學生生徒ヲ訓誡シテ
青年子女カ國家ニ負フ所ノ責任ハ將來益々重ヲ加フル

嘉ニスヘキコトナルノミナラス節約ノ美風ヲ養フニ於
テ益アルトス然レトモ獻金ヲナサンカ爲ニ時ニ父兄ニ
要求スルカ如キコトアラバ教育ノ方面ヨリ見テ喜フヘ
キコトニアラサルノミナラス國家モ亦斯ル獻金ヲ嘉納
スヘキニアラス教育ノ任コアルモノハ學生生徒ヲ以テ
能ク此ノ意ヲ體セシムヘキナリ

學校職員コシテ召集ニ應スル場合ニハ其ノ同僚職員ハ
進テ應召者ノ職務ヲ分擔スヘク管理者ハ經費ノ許ス範
圍内ニ於テハ成ルヘク優待ナス等便宜ノ處分ヲ取ルヘ
キナリ

之ヲ要スルニ陸海軍人カ死ヲ決シテ戰ヒ艱苦缺乏ヲ
忽ヒテ國家ニ報スル精神ヲ移レテ以テ教育ニ從事スル
者及ヒ教育ヲ受クル者ノ精神ト爲サンコトハ本大臣ノ
切ニ望ム所ナリ教育ノ任ニアル者ハ宜シク平素ニ於ケ
ルヨリモ一層奮勵シテ職務ニ努力スヘシ是レ實ニ國家
カ教育者ニ期待スル所ニシテ有事ノ時ニ於テ教育者カ
國家ニ報スル所以ノ道ヲ亦之ニ外ナラサルナリ

○文部省訓令第三號 (明治三十七年二月)

戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタルモノ、遺族ニ
對シテ市町立小學校ニ於テ授業料ヲ減免スヘキコトハ既

訓令

ニ至ルニ至ルユトヲ知ラシメ他年此ノ重大ナル責任ヲ
盡ス所以ハ修學時代ニ於テ專心一意心自ノ修養ヲ勉ム
ルコトヲ體認セシムヘシ故ニ一勝一敗ノ報ニ接シテ常
度ヲ失スルカ如キコトナク又他日戰勝ノ結果平和ヲ克
復スルニ至ルモ國家ノ前途ハ益々多事ニシテ今日ノ學
生生徒カ成業ノ後國家ニ盡スコトノ念々容易ナラサル
ヲ深ク覺ラシムヘシ

今ヤ露國ト事ヲ構フルモ固ト是レ平和ヲ永遠ニ克復ス
ルカ爲ナレバ學生生徒カ客氣ニ驅ラレ露國民ニ對シテ
朝罵ヲ逞クシ延キテ他ノ外國民ニマテ惡感ヲ懷カシム
ルカ如キコトナカラシムルハ子女ヲ教育上最モ注意ヲ
要スル所ナリ

我忠勇ナル陸海軍人カ國家ノ爲ニ生還ヲ期セスシテ出
征スルニ當リテハ滿腔ノ同情ヲ表セシカ爲之ヲ送迎ス
ルハ固ヨリ妨ケナキモ學生生徒ヲシテ課業ヲ廢シ貴重
ナル時間ヲ費サシムルカ如キハ忠勇ナル軍人カ在學ノ
子女ニ期待スル所ニアラサルヘキヲ以テ宜ク注意ス
ヘキコトナリ

學生生徒カ自ヲ節約シ得タル所ノ資財ヲ獻シテ軍費ノ
一端ニ供セントスルハ至愛至情ヨリ出ツルモノニシテ

ニ明治二十九年勅令第五號ニ其規定アリ今回ノ事變ニ
際シ此趣旨ヲ擴充シテ出征又ハ應召ノ軍人ノ子女ニ對
シ小學校ハ勿論其他ノ學校ニ於テモ事情ノ許ス限りハ
其授業料減免シ又ハ學用品ヲ給與スル等ノ法ヲ設ケ以
テ軍人ヲシテ後顧ノ患ナカラシム可シ

軍費供給ノ必要ハ教育費ニモ影響ヲ及ホシ新事業又ハ
設備等ニ關シ一時ノ緊縮ヲ來タスハ已ムヲ得サル所ト
ス然レトモ之カ爲ニ教員ノ俸給ヲ削減シ又ハ兒童ノ就
學數ヲ減少シ其他教育ノ效果ヲ減退セシムルカ如キハ
國力發展ノ基礎ヲ傷損スルモノナレハ務メテ之ヲ避ケ
サルヘカラス而シテ經濟上節約ヲ圖ランカ爲ニハ小學
校ニ於テハ二部教授ノ法ヲ採リ其他ノ學校ニ於テモ亦
臨機適宜ノ法ヲ講スル等適當ノ措置ヲ爲スヘシ

○內務省訓令第三號 (明治三十七年二月)

神佛各教宗派管長

宣戰ノ 聖詔ハ既ニ煥發セラレタリ國民其心ヲ一ニシ
以テ奉公ノ誠ヲ效スヘキハ固ヨリ言ヲ待タズ職ニ管長
ノ責ニアル者深ク此意ヲ體シ其宗教派内ノ教師ヲ督勵
シ之レヲシテ各其任務ニ依リ國民奉公ノ至誠ヲ完カラ
シムル所以ノ道ヲ講セシムルハ勿論其寺院教會所等ニ

關スル事業コ付テハ能ク其輕重緩急ヲ計リテ之カ節畧
コカメシメ以テ其本分ニ反クコトナキヲ期セシムヘシ
國交ハ既ニ絶ヘタリト雖其臣民ニ對シテハ固ヨリ秋毫
モ敵意アルヘキニアラス殊ニ宗教ニ對シテハ其教派如
何ヲ問ハス平等一視更ニ平素ニ滄ハル事アルナシ是レ
洵ニ布教傳道ニ從事スル者ノ最モ深ク其意ヲ致スヘキ
所ナリトス管長タル者宜シク今ニ及ンテ派内ノ教師ニ
懇諭ヲ荷クモ事體ヲ誤ル事ナキ様篤ク留意セシムヘキ
○内務省訓令第四號 (明治三十七年二月)

神宮神職

神宮神職ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌ルノ職ニ在ルヲ以テ
齊肅恭敬其事ニ從フヘキヲ要ス今ヤ宣戰ノ 詔勅煥發
セラレ特ニ 勅使ヲ神宮並ニ官國神社ニ差遣シ宣戰ヲ
奉告セラル神宮神職タルモノ深ク 聖旨ノアル所ヲ奉
體ニ尊崇悃誠益々神事ニ勤ムヘキハ勿論勤儉節約不急
ノ事業ヲ省キ能ク其本分ヲ盡シ以テ奉公ノ至誠ヲ效サ
シコトニ留意スヘキ

○大藏省訓令第五號 (明治三十七年二月)
明治三十年四月大藏省訓令第二十三號恩賞諸祿仕拂取
扱順序中左ノ通改正ス

第三條「六月」トアルヲ「五月」ト「七月」トアルヲ「六月」

ト改ム第四條中「七月」トアルヲ「六月」ト改ム

○大藏省訓令第十九號 (明治三十七年四月)

軍資獻納金取扱件

明治三十七年法律第二號ヲ以テ臨時事件費特別會計法
制定セラレ候コ付テハ軍資獻納金取扱方並ニ一般會計
ノ歲入トシテ取扱タルモノ更正方等左ノ通心得ヘキ
第一 軍資獻納金ハ臨時軍時費特別會計ノ歲入トシ大
藏省主管トシテ明治三十三年大藏省訓令第二十七號
ニ準據シ府縣ニ於テ取扱フモノトス
第二 納入告知書「某年度」ヲ「臨時軍時費歲入」トシ
「經常(臨時)」ヲ欄ヲ削ル
第三 計算報告書帳簿等一般會計ノ例ニ準テ「某年度
經常(臨時)」ヲ「臨時軍時費歲入」トシ一般會計ノ歲
入ト區別シ整理スヘシ
第四 歲入科目ハ軍資金ノ款軍資金ノ項ノ末位ニ軍資
獻納金ノ目ヲ設置ス
第五 既ニ一般會計ノ歲入トシテ取扱タルモノハ歲入
徴收官ニ於テ之ヲ特別會計ノ歲入ニ訂正シ收入濟額
中金庫ニ納入濟ノモノハ之レカ訂正方ヲ命庫ニ請求

スヘシ但シ金庫ニ納入未済ノモノハ其ノ納入際金庫
ニ於テ之ヲ臨時軍時費歲入トシテ收入セシム

○内務省訓令第六號 (明治三十七年四月)

巡查採用規則中改正

第一條 第三條中「滿三年」ヲ「滿五年」ニ改ム

第二條中「二十一年」ヲ「二十年」ニ改メ「且ツ左ノ諸項
ニ抵觸セザル者タルヘシ」ノ下ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ嘗テ巡查ノ職ヲ奉シタル者コシテ年齡五十年未
滿ナルトキハ巡查志願者タルコトヲ得

○内務省訓令第七號 (明治三十七年四月)

北海道廳府縣

北海道地方費、府縣其他地方公共團體ヨリ俸給又ハ給
料ヲ受クル吏員職員ニシテ此際陸海軍ノ召集ニ應ジ陸
海軍給與令ニ依リ受クル俸給又ハ給料ノ額吏員職員ト
シテ受クル俸給又ハ給料ノ額ヨリ寡少ナルトキハ北海
道地方費又ハ地方公共團體經費ノ許ス範圍内ニ於テ相
當規定ヲ設ケ可成其差額ヲ支給スル機取計フヘシ

○ 告 示

○ 陸軍省告示第三號 (明治三十七年二月)

陸軍從軍新聞記者心得

- 第一條 從軍セントスル新聞記者ハ其ノ履歷書ニ社主ノ身元保證書ヲ添ヘ陸軍省ニ出願スヘシ但シ外國人ニ在リテハ帝國ノ駐在ノ本國公使若ハ領事ヲ經テ外務省ヲ通シ出願スヘシ
- 前項但書ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ社名ヲ記シ履歷書及身元保證書ノ添付ヲ略スルコトヲ得
- 第二條 從軍ヲ志願スル者ハ一箇年以上新聞社員トシテ其ノ實務ニ從事セタルモノニ限ル
- 第三條 日本籍ニ通セサル外國人ハ通辯人一名ヲ職地ニ伴行スルコトヲ得
- 通辯人ヲ伴行セントスル者ハ自ラ之ヲ雇入レ其ノ身元保證書ヲ添ヘ第一條ノ願書ト共ニ出願スヘシ
- 第四條 外國人ハ通辯人ノ外必要アルトキハ從僕一名ヲ伴行スルコトヲ得其ノ手續ハ前條ニ同シ
- 第五條 必要アルトキハ數個ノ新聞社コツキ總代通信員トシテ一名ノ從軍者ヲ選定セシムルコトアルヘシ
- 第六條 從軍ヲ許可シタルトキハ從軍免許證(附表雜

告 示

形)ヲ交付ス

- 第七條 從軍者ハ之ヲ高等司令部ニ配屬ス
- 第八條 從軍者ハ常ニ洋服ヲ著シ左腕ニ幅約二寸ノ白布ヲ纏ヒ日本文字ヲ以テ所屬社名ヲ赤記スヘシ
- 第九條 從軍者ハ常ニ從軍免許證ヲ携帯シ軍人又ハ軍衙ニ在ル官吏ヨリ其ノ閱覽ヲ求ムルトキハ直ニ之ニ應スヘシ
- 第十條 從軍者ハ從軍中總テ高等司令部ノ命令ニ服從シ其ノ定ムル所ノ規定ヲ遵守スヘシ
- 從軍者ニシテ前項ノ命令又ハ規定ニ違背セタルトキハ高等司令部ニ於テ其ノ從軍ヲ謝絶スルコトアルヘシ
- 第十一條 從軍者ノ通信書(通信文私信電信等ヲ總稱ス)ハ高等司令部ニ於テ指示セル將校ノ檢閲ヲ經タル後コアラヤレハ發送スルコトヲ得ス
- 通信書ニハ總テ暗號又ハ符號ヲ用ユルコトヲ許サス
- 第十二條 從軍者ハ軍衙軍隊ニ於テ事情ノ許ス限リ相當ノ待遇ト便宜ヲ與ヘ且戰地ニ在リテハ實際ノ必要ニ依リ糧食等ヲ官給シ其ノ他本人ノ請願ニ依リ舟車ノ便乘ヲ許可スルコトアルヘシ

一

第十三條 從軍者ニシテ刑法陸軍刑法軍機保護法等ノ
 犯罪アルトキハ陸軍治罪法ノ規定ニ從ヒ軍法會議ニ
 於テ處分スルコトアルヘシ
 第十四條 本心得中第六條乃至第十三條ハ通辯人及從
 僕ニ之ヲ適用ス
 (附表雛形)

第一號
 從軍免許証
 「姓名(誰通辯人)誰從僕」
 「社名」
 「年 齡」

右「第何軍司令部」ニ從軍ヲ許可ス
 第何師團司令部
 明治三十七年五月一日

(割印)

第一號
 從軍免許證
 「姓名(誰通辯人)誰從僕」
 「社名」
 「年 齡」
 右「第何軍司令部」ニ從軍ヲ許可ス
 第何師團司令部
 陸軍省
 之印章
 明治三十七年五月一日

裏面
 一 從軍者ハ拳銃ノ外一切武器ヲ携帯スルヲ許サス
 二 從軍ヲ終リタルトキハ本免許證ハ之ヲ陸軍省ニ返納スヘシ

陸軍省告示第四號 (明治三十七年二月)

陸軍省告示第四號 (明治三十七年二月)
 恤兵金品取扱規程
 第一條 戰時若ハ事變ニ際シ陸軍軍人ヲ慰恤スル爲寄附ノ金員ハ之ヲ其目的ニ使用ノ寄附ノ物品ハ之ヲ配與ス
 但シ受理スヘキ寄附品ト軍隊ノ需用ト運搬及配與上ノ必要ニ依リ陸軍恤兵部(陸軍恤兵部ヲ開設セサルトキハ陸軍大臣官房以下同シ)ニ於テ其種類及數量ヲ限定シ官報之ヲ廣告ス
 第二條 恤兵ノ爲金員ヲ寄附セムトスル者ハ第一號書式ノ申出書ニ現金ヲ添へ陸軍恤兵部ニ差出スモノトス
 但シ寄附申出人ノ便宜ニ依リ銀行爲替郵便爲替又

ハ電信爲替ヲ以テ送付スルコトヲ得前項郵便爲替電信爲替ハ東京市麹町郵便局指定トス

第三條 恤兵ノ爲物品ヲ寄附セムトスル者ハ第二號書式ノ申出書ヲ居住地ノ市町村長(東京市京都市大阪市ニ在リテハ區長以下同シ)ヲ經テ陸軍恤兵部ニ差出シ其ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第四條 寄附金及寄附品ハ個人ト數人連合又ハ團體等ノ名義タルトキハ寄附者又ハ寄附者ノ任意トス
 但シ連合又ハ團體等ニ在リテハ代表者ノ名義ヲ以テシ且寄附者全員ノ現住所、族籍、官位、勳、爵、氏名及金額又ハ品種類數量等ヲ詳記シタル内附明細書ヲ添附スルヲ要ス

第五條 寄附金及寄附品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ受理セス
 一 個人又ハ某部隊ヲ指定シ其ノ他使用ノ方法ヲ特定シタルモノ
 二 寄附金ノ申出書壹通ノ金額壹圓未満ノモノ
 但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄附金額拾錢未満ノモノ

三 寄附品ノ種類陸軍恤兵部ノ指定以外ノモノ
 四 指定ノ品種ト雖申出書壹通ノ數量陸軍恤兵部ノ告示
 示

指定數量未満ノモノ但シ數人連合等ノ場合ニ在リテハ各一名ノ寄附品價格拾錢未満ノモノ

第六條 陸軍恤兵部ニ於テ寄附金ヲ受領セムトスル者ハ出納官吏ヲ第三號書式ノ受領書ヲ寄附申出人ニ交付スベシ
 第七條 陸軍恤兵部ニ於テ寄附品ノ申出ヲ承認シタルトキハ該品ヲ受領スヘキ官衙ヲ指定シ第四號書式ノ認可書ヲ寄附申出人ニ交付シ指定ノ官衙及市町村長ニ通報スヘシ

寄附申出人前項ノ認可書ヲ受ケタルトキハ市町村長ニ請求シテ寄附品ノ點檢ヲ受ケ該品ノ荷造ヲ堅牢ニシ其ノ上面及側面ノ二箇所ニ左ノ如キ荷札ヲ荷造ノ結構ニ依リ直ニ記スルモ妨ナレ)ヲ附著シ認可書記載ノ月日限リ指定ノ官衙ニ送付スヘキモノトス但シ荷造ニ要スル費用及指定官衙ニ送付スル費用ハ寄附申出人ノ負擔トス

何縣何郡何村何番地 氏名

某地 官衙行

第何號(認可番號ヲ記ス)陸軍用寄附品何品何程入

指定官衙ニ於テ寄贈品ヲ受領シタルトキハ第五號書式ノ受領證ヲ寄贈申出人ニ交付シ且其旨ヲ市町村長ニ通知シ同時ニ其品目員數及寄贈申出人ノ住所氏名ヲ陸軍恤兵部ニ通報スヘシ

第八條 陸軍恤兵部ハ寄附金ヲ受領シ又ハ受贈品受領濟ノ通報ヲ受ケタルトキハ其金額又ハ物品及寄附者又ハ寄贈者ノ住所氏名ヲ官報ニ廣告ス

第九條 寄附金及寄贈品ハ其ノ申出ヲ爲シタル後金額又ハ品種量目等ノ増減又ハ取消ヲ請求スルコトアルモ之ヲ採用セス

第十條 寄贈品ノ申出ヲ爲シタル者ニシテ族籍、住所又ハ氏名等ヲ變更シタルトキハ其ノ都度陸軍恤兵部ニ届出ツルヲ要ス

第十一條 市町村長ハ第七條第一項ニ依リ認可書ヲ受ケタル者ニシテ寄贈ヲ了セサルトキハ其ノ事實ヲ調査シ之ヲ恤兵部ニ通知スヘシ

第十二條 市町村長ハ第七條第二項ニ依リ寄贈品點檢ノ請求アリタルトキハ之ニ應シ包裝又ハ荷札ニ(點檢濟)ノ證明ヲ爲シ若シ腐敗損傷等ニ依リ使用ニ堪ヘスト認メタルトキハ證明ヲ爲サス直ニ其狀況ヲ恤

兵部ニ申出ヘシ

第十三條 寄贈品ハ時宜ニ依リ之ヲ檢査シ腐敗損傷等ノ爲軍隊ノ用ニ適セスト認ムルトキハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消シ寄贈品ハ之ヲ差出人ニ還付スルコトアルヘシ其ノ荷造不完全ニシテ戰地ニ運搬途中散逸ノ虞アリト認ムルモノ亦同シ

第一號書式
恤兵寄附金申出書
一金何圓也
右恤兵ノ爲寄附仕度候間御採用相成度候也
明治 年 月 日
本 籍何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
現住所何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
華(士)族(平民)
官位勳爵 氏 名
(某社)會(團體)長(總代)氏名
陸軍恤兵部 御中

第二號書式
恤兵寄贈品申出書

一何々 此價格金何圓何十錢 何 程
一何々 此價格金何圓何十錢 何 程

右ハ恤兵ノ爲寄贈仕度候間採用相成度候也
明治 年 月 日
本 籍何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
現住所何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
華(士)族(平民)
官位勳爵 氏 名
(某社)會(團體)長(總代)氏名
陸軍恤兵部 御中

第三號書式

第四號書式

第 號 認可書
一何々 何 程
一何々 何 程
右恤兵ノ爲寄贈ノ趣承認候條明治何年何月何日限リ何地何所へ送付可有之候也
明治 年 月 日
陸軍恤兵部ヲ開設セサルト 氏名
陸軍省高級副官 名
氏 名

第五號書式

第 號	納
原 一金何圓	
年 月 日	
票 第 號	
一金何圓	
但恤兵寄附金	
右正ニ領收候也	
明治 年 月 日	
陸軍恤兵部恤兵金出納官吏	
氏 名 殿	

告 示

第 號	納
原 一何々	
但寄贈品	
年 月 日	
票 第 號	
一何々	
但恤兵寄贈品	
右正ニ領收候也	
明治 年 月 日	
某官衙長 氏 名 殿	

○海軍省告示第一號 (明治三十七年二月)

明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ東京海防禦海面ト定ム

浦賀港ノ南千代ヶ崎安房國小久保島ヲ連接シタル線ト
富津崎第二海堡及夏島ヲ連接シタル線トニ依リ包圍セ
ラレタル海面

○海軍省告示第二號 (明治三十七年二月)

明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ函館海防禦海面ト定ム

辨天崎ト矢不來崎ヲ連接シタル線ト辨天崎ヲ中心トシ
葛登支岬マテノ距離ヲ平徑トシテ畫キタル圈トヲ以テ
包圍スル海面

○海軍省告示第三號 (明治三十七年二月)

明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ小樽海防禦海面ト定ム

高島崎ヲ通スル南北線ト小樽市内水天宮山(標高一九
二)ヲ中心トシ五海里ノ半徑ヲ以テ畫キタル圈ト「カヤ
シバ」岬平磯岬ノ接合線トヲ以テ包圍スル海面

○海軍省告示第四號 (明治三十七年二月)

明治三十七年二月十日ヨリ佐世保軍港防禦海面ト定ム

寺嶋水道方ノ鼻大島南端引掛崎ノ接合線、大島ノ南西
端日切、片嶋ノ東端、黒島根谷ノ鼻、高島ノ南西桂岩
相ノ浦灣口ニ本松ノ接合線以內ノ海面但シ大村内灣ヲ
除ク

○海軍省告示第五號 (明治三十七年二月)

明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ竹敷要港防禦海
面ト定ム

竹敷要港境域内ニ屬スル水面但シ雞知灣ニ在テハ網掛
崎ヨリ赤崎ニ至ル線以內

○海軍省告示第六號 (明治三十七年二月)

明治三十七年二月十日ヨリ左ノ區域ヲ舞鶴軍港防禦海
面ト定ム

舞鶴軍港域内ニ屬スル水面

○海軍省告示第七號 (明治三十七年二月)

恤兵ノ主意ニ因リ軍隊ニ寄附スル金員及寄贈スル物
品取扱規程ノ件

恤兵金取扱規程

第一條 海軍軍人ニ慰恤スルノ目的ヲ以テ寄附シタル
金員ヲ恤兵金トシテ寄贈シタル物品ヲ寄贈品トス

第二條 恤兵金ヲ寄附セントスル者ハ第一號書式ノ恤

兵金寄附申出書ニ現金ヲ添エ海軍省經理局長ニ差出

スヘシ但東京市外ニ居住スル者ハ海軍省經理局恤兵
金出納官吏宛ノ銀行爲替若ハ郵便爲替ヲ以テ送付ス
ルコトヲ得

第三條 物品ヲ寄贈セントスル者ハ第二號書式ノ寄贈

品申出書ヲ海軍省經理局長ニ差出スヘシ

第四條 恤兵金寄贈品ハ一個人タルト數人聯合又ハ會
社團體等タル時ハ寄附者又ハ寄贈者ノ任意トス但數
人聯合又ハ會社團體等ニ在テハ代表者ノ名義ヲ以テ
スヘシ此場合ニハ内譯明細書ヲ添付シ寄附者又ハ寄
贈者全員ノ現住所族稱氏名及金額又ハ品種數量等ヲ
細記明確ナラシムヘシ

第五條 恤兵金及寄贈品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當ス
ルモノハ之ヲ受理セス

- 一 一個人又ハ艦船部隊ヲ指定シ其他使用ノ方法ヲ
特定シタルモノ
- 二 恤兵金ノ申出書一通ノ金額拾錢未滿ノモノ但數
人連合等ノ場合ニ在テハ各一名ノ寄附金額拾錢
未滿ノモノ

第十二條ニ指定セル種類以外ノ寄贈品

告 示

第六條 海軍省經理局長寄贈品ノ申出ヲ認可シタルト

キハ第三號書式ノ認可狀ヲ寄贈者ニ交付スルト同時
ニ寄贈品ヲ受領スヘキ官衙ニ之ヲ通知スヘシ

第七條 物品寄贈者ハ前條認可狀ニ於テ指定セラレタ

ル官衙ニ寄贈品ヲ送付スヘシ但荷物ヲ送達スヘキ官
衙ニ至ルマテノ運搬費ハ寄贈者ノ負擔トス

第八條 恤兵金出納官吏恤兵金ヲ受領シタルトキハ第
四號書式ノ受領證ヲ寄附者ニ交付ス

第九條 寄贈品ヲ受領シタル官衙ハ第五號書式ノ受領
證ヲ寄贈者ニ交付シ同時ニ其品目員數及寄贈者ノ氏
名等ヲ經理局長ニ報告スヘシ

第十條 海軍省經理局長恤兵金出納官吏ヨリ恤兵金領
收濟ノ報告及寄贈品ヲ受領シタル官衙ヨリ寄贈品領
收濟ノ報告ヲ得タルトキハ之ヲ官報ニ廣告ス

第十一條 恤兵金及寄贈品ハ其申出ヲ爲シタル後金額
又ハ品種量目等ノ増減又ハ取消ヲ請求スルコトアル
モノヲ採用セス

第十二條 寄贈ヲ認可シキ物品ヲ概ネ左ノ三種トス
其品目ハ海軍省經理局長之ヲ官報ニ廣告ス

糧食品類 繙帶用品類 雜品類

書式零ス

○海軍省告示第八號 (明治三十七年二月)

海軍從軍新聞通信者心得

第一條 海軍ニ從軍セントスル新聞通信者ハ大本營海軍幕僚ニ出願シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 從軍新聞通信者ハ其ノ所屬艦隊軍隊ノ指揮官ノ命令ニ從フヘシ

第三條 從軍新聞通信者ハ艦隊軍隊ノ指揮官ノ命令セラルル將校ノ檢閲ヲ經ルコトヲサレハ軍事ニ關スル一切ノ文書ヲ發送スルコトヲ得ス

第四條 艦隊軍隊ノ指揮官ハ從軍新聞通信者ノ從軍許可ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 從軍新聞通信者ノ取扱ニ關スル必要ナル規程ハ艦隊軍隊ノ指揮官ノ定ムル所トス

第六條 從軍新聞通信者ハ洋服ヲ著シ低圓形ニシテ庇附ノ帽ヲ用ヒ其ノ左臂ニ幅一寸ノ白色羅緞ヲ纏ヒ何新聞通信者ト記スヘシ

八

第七條 從軍新聞通信者ハ常ニ第一條ノ許可書ヲ携帶シ陸海官憲ヨリ請求アルトキハ之ヲ開示スヘシ

○遞信省告示第六十七號 (明治三十七年三月)

海外電報料金中改正

明治三十年六月遞信省告示第六十七號海外電報料金表左ノ通り改メ本日ヨリ施行ス

第二表韓國地方ノ部中「馬山浦」ノ一項ヲ削リ「大邱」ノ次ニ「馬山」(Massampo)ノ一項ヲ加ヘ又但書ヲ左ノ通改ム

但京城及韓國電信線ヲ經テ大邱及馬山ニ發着スルモノハ一語ニ付金四十五錢トス

第五表第一ノ部中「韓國釜山京城及仁川」トアルヲ「韓國釜山京城仁川及馬山」ニ改ム

○遞信省告示第二百八號 (明治三十七年三月)

露西亞宛小包郵便ニ添付スヘキ稅關告知書ノ件

露西亞宛小包郵便物ニ添付スヘキ稅關告知書ニ該小包ノ價格、全體重量及正味重量ヲ式ノ如ク記入タシル上更ニ包有物件ノ種類別ニ其ノ品名、價格、正味重量及數量(箇數、若シ量ハ尺度等)ヲ明細ニ記載スヘシ但シ

其ノ價格ハ露國貨幣ニテ又其ノ重量ハ「グラム」ニテ表示スルヲ要ス

告示

明治三十五年(十月)遞信省告示第四百五十四號之ハヲ廢止ス

○陸軍省告示第十三號 (明治三十七年三月)

軍馬預託規則改正

軍馬預託規則左ノ通改正ス

軍馬預託規則

第一條 軍馬補充部支部ニ於テ保管スル軍馬ヲ該部外ニ預託飼養セシムルトキハ此ノ規則ニ據ル

第二條 軍馬預リ主ハ馬匹ノ飼養ニ慣熟シ身元確實ニシテ此ノ規則ニ定ムル條項ノ遵守ヲ承諾シタル者ニ限ル

軍馬預リ主ハ身元確實ナル保證人ヲ要ス

軍馬預リ主及保證人ノ身元ハ市町村長ノ證明ヲ要ス

第三條 軍馬補充部支部長ハ預託軍馬ノ授受及檢査ニ際シテ市町村吏員ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第四條 軍馬預託ノ期限ハ軍馬補充支部部長之ヲ定ム

第五條 軍馬預託料及其ノ交付時期ハ軍馬補充支部

長之ヲ定ム

第六條 預託軍馬ノ輸送ハ明治三十三年陸軍省令第二十一號軍馬輸送規則ニ準據スヘシ

第七條 軍馬預託中疾病負傷又ハ斃死等ノ爲メ費用ヲ要シタルトキハ軍馬輸送規則第十條ニ準據シ支辨スヘシ

第八條 軍馬補充部支部長ハ預託軍馬ニ關シ預リ主ヲシテ左ノ各項ヲ遵守セムヘシ

一 常ニ衛生及飼料ニ注意シ確實ニ管理飼養スルコト

二 適當ノ運動ヲ行ハシムル外一切使役セサルコト

三 設備不完全ノ地ニ放牧セサルコト

四 疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ速ニ獸醫ノ治療ヲ受ケ同時ニ診斷書ヲ添ヘ軍馬補充部支部ニ届出ツルコト

六 痲疾ニ罹リ又ハ斃死シタルトキハ其ノ原因景況及之ニ對シ施シタル處置ヲ記載シ診斷書及市町村長ノ證明書ヲ添ヘ速ニ軍馬補充部支部ニ届出ツルコト

七 預託馬匹逸走シ又ハ盜奪セラレタルトキハ直ニ最寄警察署、警察分署若ハ巡查駐在所ニ届出テ同時

九

當該軍馬補充部支部ニ届出ツルコト
 入前各項ノ外軍馬補充部支部長ヨリ特ニ指定シタル
 事項ヲ遵守スルコト

第九條 軍馬補充部支部長ハ隨時預託馬匹ノ検査ヲ行
 フヘシ但シ預リ主ヲシテ特ニ指定ノ場所ニ馬匹ヲ牽
 出サシムルコトヲ得

第十條 軍馬預リ主第八條ノ規定ヲ遵守セザルトキハ
 契約期限内ナルニ係ハラス馬匹ヲ返納セシメ且損害
 アリタルトキハ其ノ賠償ヲ命スルコトアルヘシ

軍馬預リ主ノ不注意ニ依リ馬匹ヲ癡疾又ハ斃死ニ至
 ラシメ其他逃走セシメ又ハ盜奪セラレ一箇月以内ニ
 之ヲ發見セザルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシメ且之
 ニ關スル一切ノ費用ハ自辨セシムルモノトス

第十一條 軍馬預リ主ハ馬匹受領ノ際左ノ書式ニ依リ
 軍馬預リ證ヲ差出スヘシ

馬預リ證

別紙名簿ノ馬匹何頭明治何年何月何日何飼ヨリ明治
 何年何月何日何飼迄軍馬預託規則ニ據リ御預リ申候
 取テハ不行届ノ麻アル場合ニ於テハ軍馬預託規則第
 十條ノ御處分相受候共決シテ違背仕間敷若シ本人ニ

於テ此ノ契約ニ背キ候節ハ保證人ニ於テ引受一切處
 辨仕ヘク候也

何府(縣)何郡(市)何町(村) 名印
 預リ主 何府(縣)何郡(市)何町(村) 名印
 何府(縣)何郡(市)何町(村) 名印
 保証人 何府(縣)何郡(市)何町(村) 名印
 軍馬補充部何支部長某殿
 前書預リ主何某及保証人何某ハ當市(町)(村)内ニ於
 テ一家ヲ立テ身元確實ナル者ニ相違無之候也
 年 月 日 何市(町)(村)長 氏 名印
 (保證人他市町村ノモノナルトキハ右ニ準シ該市
 (町)(村)長ノ證明ヲ受クヘシ)

牧場番號	名稱	年 齡	毛 色	預託當時體尺	
				馬 種	別 徵
				代 價	

何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地住(寄留) 預リ主 某印

明治三十七年四月二十五日印刷
 明治三十七年四月二十八日發行

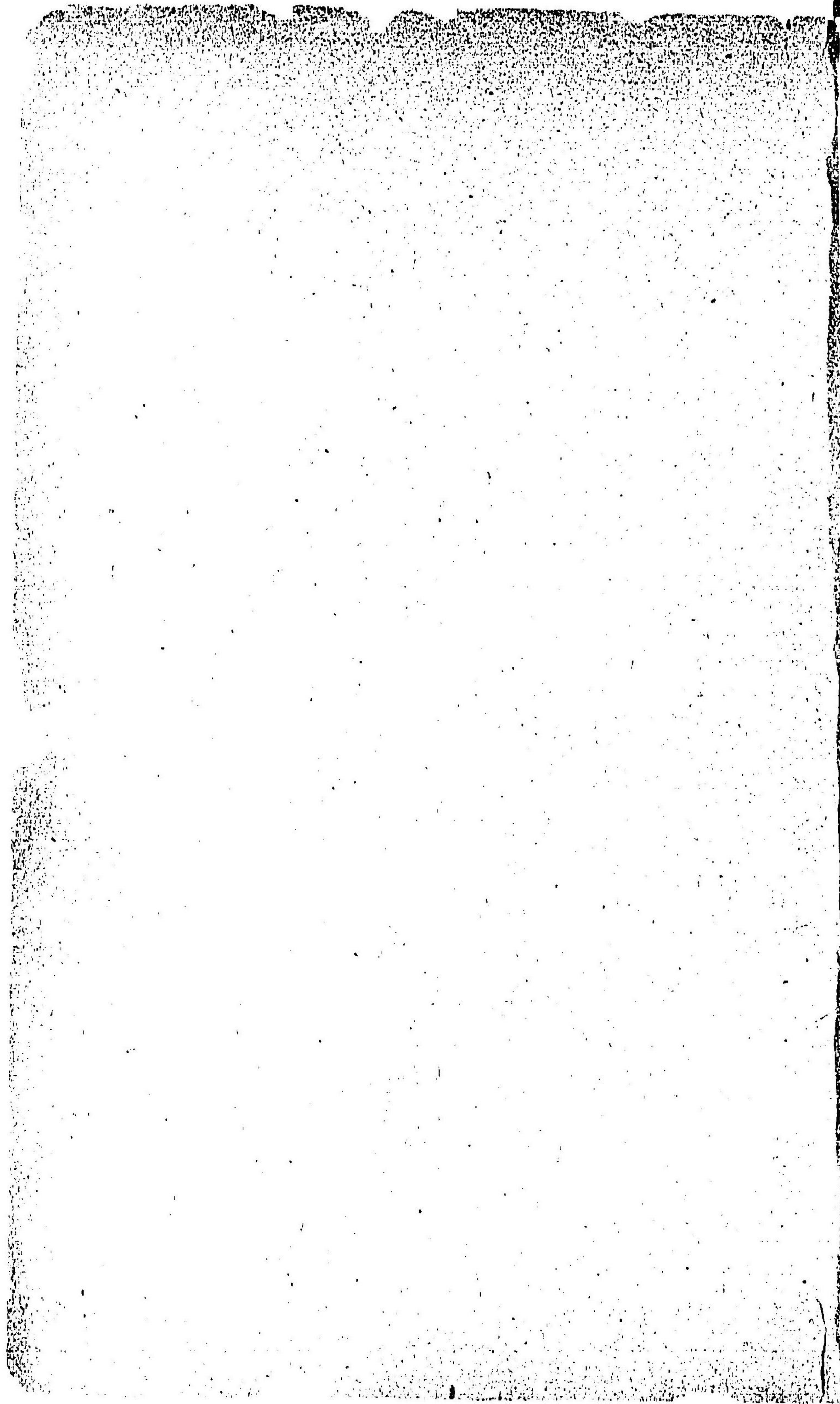
定價金貳拾錢

茨城縣水戸市上市黒羽根町十二番地
 編輯兼發行人 根 本 幹 太 郎

茨城縣水戸市上市黒羽根町十二番地
 印刷 人 小 竹 森 元 吉

茨城縣水戸市上市黒羽根町十二番地
 印刷 所 茨 城 印 刷 所

發行所 日本法學書院



The right side of the page contains very faint, illegible text. The characters are sparse and difficult to discern, but they appear to be arranged in several vertical columns. Some faint markings are visible, possibly representing the start of lines of text, but the overall content is too light to be transcribed accurately.

禁電子式複写